第一小学校　　10月7日～10月14日（7泊8日）

○日程表

１０月７日（水）		１０月８日（木）		１０月９日（金）		１０月１０日（土）	
7:30	出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
		7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
12:00	昼食	9:30	郷土食体験	9:00	中山随道見学	9:00	農業体験②
13:00	開校式			10:30	山古志村見学		稲刈り・はざがけ
14:00	名水めぐり	12:00	昼食	12:00	昼食（もちつき）	12:00	昼食
15:30	目黒邸見学	13:30	農業体験①	13:30	課題別学習①	13:00	農業体験③
16:00	昔話を聞く会		わら細工作り				脱穀・もみすり・精米
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	はじめましての会	19:00	手紙書き				
		19:30	語らいの時間	19:30	語らいの時間	19:30	語らいの時間
20:30	学習・生活の記録	20:00	学習・生活の記録	20:00	学習・生活の記録	20:00	学習・生活の記録
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

・けやきの時間（総合的な学習の時間）を使って、稲の生長過程を知るためにバケツで栽培を行った。土作りから始まり、芽だし、植え付け、水の管理などを通して、稲の成長する過程を知ることができた。また、社会科で「米作りのさかんな地域」について詳しく調べ、セカンドスクールで体験する農業体験に結びつけた。

・それぞれが「魚沼で学びたいこと」として、①米②生き物③植物④水⑤雪国のくらし⑥人と暮らしの６つの課題別グループに分かれて学習を進め、現地での学習につなげた。

・一週間お世話になる民宿の方々に自己紹介カードや学習の様子の紹介など、数回にわたって事前に送り、また宿からも保護者・児童向けに説明に来ていただき、交流をもった。そのため、現地での出会いは「はじめまして」より一歩進んだ形となった。

・宿泊する宿ごとのグループ内で係分担をし、それぞれの係でスローガンや学習・生活の約束事を作り、学年全体で情報交換・共通理解を図った。

新潟県　魚沼市

参加人数　男子26名　女子28名
計54名

１０月１１日（日）		１０月１２日（月）		１０月１３日（火）		１０月１４日（水）	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:00	カントリーウォーク	9:00	鮭一括採捕場見学	9:00	林業体験（炭焼き、	8:00	掃除
12:00	ブナの森散策	10:30	川の学習		雪室見学、薪割り）	10:30	閉校式
13:00	昼食	11:00	農業公社見学	12:00	昼食	12:00	昼食
15:00	宿別体験	12:00	昼食	13:00	林業体験（伐採）	15:30	学校到着
		13:30	課題別学習①	15:30	セカンドのまとめ	16:00	解散式
17:30	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食		
19:00	天体観測	19:00	手紙書き	19:00	ありがとうの会	19:00	手紙書き
		19:30	語らいの時間			19:30	語らいの時間
21:00	学習・生活の記録	20:00	学習・生活の記録	20:30	学習・生活の記録	20:00	学習・生活の記録
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯

②　事後の学習内容

・セカンドスクールにおける稲刈り、脱穀、精米の経験を生かして、セカンドスクールで刈り取った稲の育ち具合とバケツで育てた稲の生長ぶりを比較しながら、自分で育てた稲を刈り取り、脱穀することができた。
・国語の作文単元の発展として、「セカンドスクールでの思い出」を作文にまとめ、お互いが体験した生活の様子を知り合うことができた。
・宿の方にお礼の手紙を書き、更なる交流へつなげることができた。
・セカンドスクールの体験や学習したことを、「セカンドスクール報告集会」で学校全体に発表した。その際、現地で学んだこと、体験したことを振り返り、２人１組で発表する内容を分担した。またその後、課題別学習のグループごとに学んだことをまとめ、学校公開日に発表した。
・学校公開日には、お世話になった民宿の方々や生活・学習指導員の方々を招待し、発表を見ていただくことができ、交流を深めることができた。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、名水巡り（里山散策）

初日の名水巡りは、班ごとに地図を見ながら、ウォークラリー形式で行った。湧き水が出ているところを４カ所回り、また、それぞれが泊まる民宿の場所も確認することもできた。地図の読み取りに苦労し、迷ってしまうグループもあったが、これから一週間生活する魚沼市守門の様子がつかめたようだった。

２、カントリーウォーク

目的地であるブナ林まで、２班に対して１名の講師の先生についてもらったため、講師の先生の話を聞きながら、充実した登山を行うことができた。湧き水を飲める場所に連れて行ってもらっておいしい水を飲んだり、「この実は食べられるんだよ。」「この道は昔から生活する上で欠かせない道だったんだよ。」と聞いたりするなど、児童の興味を引き出すように自然の様子を紹介していただいた。そのため、目を輝かせていろいろなものを発見しようとする姿が見られ、児童の方から質問する場面も見られるようになった。また、地元の小学生６人と保護者の方にも参加していただき、歩きながら交流を深めることができた。

目的地であるブナ林では、講師の方の説明を聞きながら、ゆっくりとブナ林を散策した。雪国の自然に適応し、雪の重みに耐えて生きるブナの木の特性や、たくさんの水をたくわえ、田畑を潤すブナ林のはたらきの事など、自然と人々の関わりについて分かりやすく話していただいた。また、「第一小学校の木」を決めさせていただき、班ごとにメッセージを書き残した。

＜学習体験活動＞

１、米の収穫体験

【稲刈り体験】

４日目は一日農業体験となった。各民宿で朝食をとると、すぐに稲刈り体験を行った。はじめに、鎌で稲を刈る方法や、刈った稲の束ね方を教えていただき、注意事項も確認し、班ごとに民宿のお父さんの指導のもと稲刈り体験を行った。始めのうちはぬかるんだ田に、歩くことさえ難しかったり、上手く鎌を使えなかったりした児童も、段々と慣れてくると手際よく稲を刈っていった。しかし児童にとっては、その後のかさぎがけするために稲を束ねることの方が難しかったらしく、お互いに教え合う姿が随所で見られた。その後脱穀・選別の作業に移った。千歯こきや、足踏み式回転脱穀機を使って、刈り取った稲を脱穀した。作業をしながら勢いよく飛び散る籾に驚いていた。脱穀した籾は、ペットボトルを使って、精米した。毎日食べているお米がこのような大変な作業の末、私たちの所まで来ることを知り、よい体験となった。

２、わら細工づくり

今年度も昨年度に引き続き、わら細工作りに取り組んだ。稲わらを三つ編みにし、一つ一つていねいに編んでいった。自分自身のオリジナルのなべしきを作り、児童一人ひ

とりの個性にあふれた作品が出来上がった。民宿の方も子どもたちの熱心に取り組む姿勢に対し、愛情を持って丁寧に教えて下さった。苦労しながら完成させた手作りなべしきを家族へのおみやげにできて、満足そうであった。また、昔の人の生活の知恵、生活の工夫を学ぶいい機会になった。

3、林業体験

【林業体験】

午前中に炭焼き・薪割り体験をし、午後は実際に山の中へ入って木を伐採する体験を行った。炭焼き体験では、あらかじめ２日前から火を入れておいていただき、実際に全員が炭出し作業を分担し体験することができた。釜から取り出す時には、高温の熱が顔にあたり驚いていたが、危険な仕事であること、大変な仕事であることを意識して、皆が真剣に作業に取り組んだ。また、伐採体験では、２人１組になって自分たちで決めた木を切り倒し、１ｍ間隔に裁断した。中には、太い木を選択してしまい、苦労している子達もいたが最後まで責任をもって切ることができた。講師の方に「なぜ木を切るのか。木を切ることでどんな効果があるのか。」「炭はどうやって作るのか。」「黒炭と白炭の使い方のちがい」など詳しく説明しもらった。

4、課題別学習

「新潟県魚沼で学びたいことは何ですか」との問いかけにたくさんの答えが返ってきた。「やはり日本一おいしいと言われるお米の秘密が知りたい。」「東京にはない自然についてたくさん学びたい。」「私たちの生活とのちがいを学びたい。」児童は好奇心で一杯だった。そこで総合的な学習の時間を使って、それぞれ学びたいことごとにグループを作った。「武蔵野市と魚沼市」を全体のテーマに設定し、事前学習では、武蔵野市の様子について副読本やインタビューなどを通して調べ、セカンドスクールに臨んだ。活動の内容は、あらかじめ課題別グループごとに知りたいこと、学びたいことを伝えておき、計画を立てていただき、３日目と６日目に課題別学習の時間を設定した。課題別学習の内容は以下の通りである。

①米グループ（ライスセンターで選別・精米の体験、インタビュー等）
②水グループ（近くの池・川の生き物観察）
③生き物グループ（周辺のブナ林、杉林で生き物観察）
④植物グループ（周辺のブナ林、杉林で植物観察）
⑤人とくらしグループ（地元の人との語らい・資料館で昔使われていた道具等の学習）
⑥雪国の暮らしグループ（民宿・スキー場で雪国のくらしの話、雪室見学）

＜生活体験活動＞

1、宿での共同生活

セカンドスクールに行く前から、児童にとって魚沼の自然との触れ合いとともに関心を示し

ていたのが、友だちとの１週間に及ぶ共同生活であった。セカンドスクールが始まると、初めの頃はホームシックや班でのトラブルが各宿で見られたが、民宿のお父さんやお母さんとの触れ合いの中で次第に男女が仲良くなり、協力し合う姿が見られるようになった。セカンドスクールから帰った後も、友だちの意外な面やよいところを新しく発見したこと、楽しく過ごせたことを、自慢げに話す様子が多く見られた。また、宿の方々からもはじめましての会やありがとうの会、語らいの時間を楽しく過ごさせてもらったという報告がたくさん入った。

２、郷土食体験

郷土食体験は各民宿で分かれて行った。笹団子や五目ご飯など普段家庭でも、あまり作らない料理だったが、みんな一生懸命作っていた。また、普段は好き嫌いの多い子どもも、料理を残さずおいしそうに食べるなど地元の料理、自分たちが作った料理に対する愛着が高まっていることが感じられた。どのグループも民宿の方々との会話を通して、昔から伝わる様々なことを学ぶことができ、自分たちの料理を自慢するほど楽しんだ郷土食体験であった。

３、宿別体験

宿別体験も郷土食体験と同じく、各民宿で分かれて体験を行った。畑で野菜や果物の収穫体験をしたり、植物の種を使ってキーホルダー作りをしたり、どの宿も生き生きと活動していることが良く分かった。それぞれの民宿で別々のことをやったので、活動後には、他の宿の活動に興味をもって聞いたり、自分の宿の活動を自慢したり、話をしていた。

○児童の感想

・課題別学習では、雪国の暮らしについて学習しました。東京の家とは全く違う家の形で興味をもちました。みんなでちがう課題をもってやる学習は、とても面白くていろいろな場面で生かしたいです。
・天体観測では、天の川を見ました。一部だったけれど、星が川のように流れていて宇宙の広がりを感じました。
・私は、手作業での米の脱穀・精米を体験して、昔の人は大変だったんだなぁと思いました。
・僕は伐採体験を通して、木を切ることが他の木にも日光を当てるために必要なことを初めて知りました。

○保護者の感想

・セカンドスクール報告会では、自分たちがやってきた活動を分かりやすく説明する姿に、それぞれが中身の濃い８日間を過ごしていたことを改めて感じさせられました。また、民宿の方がそばに寄ってきて「上手にできたねえ。」と、まるで本当の孫に声をかけるような姿に目頭が熱くなりました。
・セカンドスクールでは、普段できない体験をたくさんでき、いろいろと学べてとても

良かったと思います。これから生きていく上でいい勉強になったと思います。この経験をこの先どんな風に生かせるか、楽しみになりました。

・途中ホームシックになったようでしたが、民宿のお父さんお母さんや、指導員の先生、友だのおかげで乗り切ることができたようです。今では、また行いきたいと言っています。

○総合的な学習の時間との関連について

１学期…①米作りに対する意識を高め、収穫の喜びを分かちあえるように、バケツに田植え、草取り等を行った。またコンピュータとデジタルカメラを使って観察記録を作り、稲の成長を細かく観察した。

２学期…①１学期に引き続きバケツ稲の世話、コンピュータを使っての観察カード作りを行った。またセカンドスクールでの経験を生かして、自分たちで栽培したお米を稲刈りから精米まで行い、持ち帰ることができた。

②現地の課題別学習で、魚沼市と武蔵野市を比較するために、あらためて武蔵野市の生き物や植物、暮らしについて調べた。

③セカンドスクール８日間の様子と課題別に学習したことをコンピュータや模造紙などを使ってまとめた。また、それを使って保護者や指導員の先生に向けて発表する活動を行った。

３学期…①セカンドスクール報告会の資料を使って、４年生へ向けて説明会を行う。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・昨年、プレセカンドスクールを体験したことで、宿泊に対する不安も減り、期間が長いセカンドスクールにも意欲的に取り組めた。また、友だちとの関係も、初めのうちは小さなトラブルも見られたが、次第になごやかに過ごせるようになり、大きな自信をもった。

・事前の調べ学習や事後のまとめ学習についても、昨年度の経験を生かしてまとめることができ、有意義な活動を行うことができた。

○次年度に向けての反省・課題

・今年度、昨年度の反省をもとに活動内容を精選し、余裕をもって活動を行うことができた。しかし、まだまだ考えていく必要はあると思うので、プレセカンドとの関連も考慮し、新しい活動場所でのプログラムの計画等を民宿の方々や市の観光課の方々と連絡を取り合いながら練り上げていく。

・地元の児童とのふれあいが、カントリーウォークに限られてしまっているためにかかわりをあまり深めることができていない。今後は、地元の小学校との連携も視野に入れて検討していく必要がある。

第二小学校　　9月27日～10月4日（7泊8日）

○日程表

９月２７日（日）		９月２８日（月）		９月２９日（火）		９月３０日（水）	
7:00	武蔵境駅集合	6:30	起床・検温・健康観察	6:30	起床・検温・健康観察	6:30	起床・検温・健康観察
7:10	出発式		清掃・出発準備	7:30	清掃・出発準備	7:00	清掃・出発準備
7:50	武蔵境駅発	7:30	朝食		朝食	7:30	朝食
	東京駅着	8:30	地域探索	9:00	公民館着	8:30	今までの学習をまとめよう
9:28	東京駅発				朝会・講師紹介	10:00	スノーバレー着
10:40	越後湯沢駅着	9:30	そばを打って食べよう	9:20	木工作品作り		朝会・講師紹介
10:48	越後湯沢駅発	11:00	昼食	11:30	昼食		森林を守る仕事を知ろう
	車中昼食	12:50	水田着	12:20	公民館発	12:45	国際キャンプ場着
12:57	高岡駅着	13:00	稲刈りをしよう	14:30	峠の一本杉着	13:00	昼食
13:25	高岡駅発	15:00	お礼の会	15:20	お礼の会	13:45	生命の大切さを知ろう（岩魚づかみから）
	休憩	16:00	民宿着	16:00	各民宿着	15:45	お礼の会
15:20	行政センター着		検温・入浴	17:00	検温・入浴	16:30	各民宿着
15:30	開校式	18:00	夕食	18:00	夕食	17:00	検温・入浴
16:00	各民宿到着	20:00	利賀の話を聞こう	20:00	お家の人に手紙を書こう	18:00	夕食
	自己紹介の会	21:00	学習のまとめ	21:00	学習のまとめ	20:00	利賀の話を聞こう
	自分の箸を作ろう		健康観察		健康観察	21:00	学習のまとめ
17:00	検温・入浴	21:30	就寝	21:30	就寝		健康観察
18:00	夕食					21:30	就寝
20:00	学習のまとめ						
	健康観察						
21:30	就寝						

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

「利賀の森は地球を守る」

セカンドスクールで出会うであろう様々な疑問や問題を想定し、セカンドスクールが自己解決の場になったり、新たな学習への興味・関心や意欲を高められたりする場になるように、４月当初から事前学習をスタートさせた。

・校庭の樹木観察（自然への興味関心意欲の高揚・自然観察の基礎学習）

・日本の森林（形相・環境）

・森林と日本人との歴史的なかかわり（暮らしと環境）

・森林のはたらき（産業・動物の住処・空気浄化・貯水・土砂災害防止・暴風防砂・憩い・海）

・林業（５年社会科の林業の発展補充的内容）

・環境問題と環境保護活動（日本の絶滅種を含めた広範な環境問題）

② 事後の学習内容

セカンドスクールで学習した内容は、現在以下のような学習に生かしている。尚、３学期はセカンドスクールで収穫した米を使っての「おにぎりパーティー」を計画・実施し、指導員の方とともに収穫の喜び

富山県南砺市利賀村

参加人数　男子42名　女子35名
計77名

１０月１日（木）		１０月２日（金）		１０月３日（土）		１０月４日（日）	
6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:30	起床・検温・健康観察	6:00	起床・検温・健康観察 清掃・荷物準備
7:30	朝食	7:30	朝食	7:00 7:30	清掃・出発準備 朝食	6:50	朝食 出発準備
9:00	利賀小学校着	9:00	利賀小学校着 始めの会	9:001 0:00	そばの郷着 相倉合掌造り集落着		閉室式
9:10	課題別に活動しよう①		自己紹介・校内見学 麦屋節を踊ろう		相倉集落を見学しよう 民俗資料館見学	8:30 8:40	そばの郷着 閉校式
12:00	昼食	12:00	キンボール大会 給食	11:15	相倉合掌集落発	9:15	お別れ会 そばの郷発
13:30 14:45 15:00 17:00 18:00 19:30 21:00	そば資料館見学 民宿着 課題別に活動しよう② 検温・入浴 夕食 ありがとうの会準備 学習のまとめ 健康観察	13:00 15:30 16:00 17:00 18:00 19:00 21:00	キンボール大会 麦屋節を踊ろう お別れの会 民宿着 検温・入浴 夕食 民宿の人に色紙を書こう 学習のまとめ 健康観察	12:151 2:30 13:30 17:00 18:00 19:00 21:00	民宿着 昼食（各民宿） 民宿ごとの活動をしよう 餅つき、わらじ作りなど 検温・入浴 お別れ夕食会 ありがとうの会 学習のまとめ 健康観察・出発準備	11:00 11:40 12:00 14:10 15:40 16:45	休　憩 高岡駅着 高岡駅発 車中昼食 越後湯沢駅発 東京駅着 武蔵境駅着 解散式
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝	17:15	解散

を味わいたいと考えている。

・各自で設定したメインテーマ発表（個人での発表）

・セカンドスクール新聞作り（個人で作成）

・セカンドスクール発表会（保護者、指導員、４年生に向けての発表会）

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

１、峠の一本杉をめざして・原生林を歩こう

雨天であったため、午前中は雨天プログラムである「鳥笛作り」を行った。午後になり、小雨になったので、峠の一本杉まで班ごとに歩くこととした。東京では感じられない利賀の森林を体全体で感じ、一人一人が個人の課題に対して深く考え、行動するために、10 の民宿班に 1 人ずつの講師の先生についていただき実施した。道中は木や植物、利賀の自然についての話を聞きながら歩いた。利賀の自然について、子どもたちはとても興味を示していた。途中坂上の大杉を見たり、湧き水を味わったりしながら峠の一本杉を目指した。湧き水の冷たさや、大杉の太さに驚くとともに、利賀の自然の雄大さを感じていた。峠の一本杉を目指すことと講師の方々の話を聞くことの両立は時間的に少し厳しかったが、子どもたちにとって、利賀の森林を実感できた活動であった。

＜学習体験活動＞

１、自分の箸を作ろう

民宿ごとに竹の箸作りを行った。民宿の方に箸作りの工程、小刀や紙ヤスリなどの道具の使い方を教えていただき始めた。製作した箸はセカンドスクール期間中民宿での食事の際に使用するということもあって、意欲的に取り組んでいた。初めて民宿に行き、すぐに取り組んだ活動であったため、民宿の方々といろいろな話をしながら進めることができ、民宿の方との最初の交流ができた。また、班の中で教え合いながら取り組むことで、これから班で共に生活していくということが意識された活動であった。

２、稲刈りをしよう

講師の先生についていただき、稲を刈る班とはざかけをする班で交代しながら行った。講師の方々に、釜での稲の刈り取り方、束ね方、はざかけの仕方などを教えていただいた。田んぼの状態はとても良好であり、子どもたちはとても一生懸命に取り組んでいた。ほとんどの子どもにとって稲刈りは、初めての体験であり、社会科で学習した「米作り」の学習を身近に感じることができた活動であった。

３、木工作　鳥笛を作ろう

雨天プログラムとして予定していた木工作品作り（鳥笛作り）を行った。和紙作りに利用される楮の木を、のこぎりで切れ目を入れたり、小刀を使いながら削っていったりした。最初は慣れない手つきの子もいたが、徐々に慣れていき、夢中になって削っていた。音が出るようにするのはなかなか難しく、苦戦する姿もしばしば見られたが、現地の方に丁寧に教えていただき、最後まで投げ出さずに全員が完成させることができた。ピーという音が出た時、子どもたちはとても喜んでいた。時間はかかったものの、一人一人が完成するまでじっくりと自分の力で取り組むことができた活動であった。

【木工作　鳥笛作り】

４、森を守る仕事を知ろう

利賀村森林組合の方々から、森を守る仕事、森林の大切さなどの話を聞いた。事前に総合的な学習の時間で森林について学習したことと関連させながら聞くことができた。チェーンソーを使っての大きな木の伐採実演を見せていただいた。普段あまり目にしない昔の林業道具についての説明に、真剣に耳を傾けていたり、便利な機械を使っての実演の様子を見て、「わ～すごい！」という感嘆の声をあげたりしていた。その後、班ごとに伐採した杉の木の枝はらいを行った。一人一人のこぎりをもち、枝を切っていった。とても夢中になって取り組んでいた。なかなか切ることができず時間がかかる子どももいたが、山での仕事の大変さを感じながら活動することができた。

５、課題別に学習しよう

事前に利賀村のことを調べ、その中で疑問に思ったことや、実際に行って、見て、調べてみたいことを各自考え、選択課題として追究することとした。選択課題は昨年度の反省を生かして細かく設定し、以下の８つの選択課題とした。（１）利賀地方のくらし、（２）利賀の歴史、（３）利賀の森林と環境、（４）利賀地方の伝統料理、（５）利賀の伝統行事、（６）利賀地方の民話、（７）利賀地方の方言・今と昔の子どもの遊び、（８）利賀地方の動植物の８つの

中から選び、さらにその課題の中で自分が追究したいことを決定して追究していくこととした。事前に子どもたちの課題の内容を知らせ、課題ごとに講師をつけていただいた。子どもたちは自分の課題について伝えながら、話を聞いてメモをしていた。伝統料理を利賀の方と一緒に作ったり、昔遊びを体験したり、民俗資料館に行き、当時の暮らしの様子を見学するなどの活動を行った。課題別の学習を５日目に設定したことにより、セカンドスクールに来てから民宿の方やその他の利賀の方に教えていただいたことと関連させながら聞いたり体験したりすることができた。

6、そばの資料館を見学しよう

学級ごとにそばの資料館の１、２階に分かれて見学をした。１階ではそばの歴史や種類などについて、解説を行っていただき、子どもたちは興味をもちながらメモをとり、質問をしながら学習した。２階では、利賀の昔のくらしについての資料を見学した。２日目の午前に体験したそば打ちと関連させながら、そばについての理解を深めることができた。自由に見学する時間や質問の時間も十分にとることができた。

＜生活体験活動＞

1、そばを打って食べよう

利賀村の郷土料理であるそば打ち体験をした。それぞれの民宿の個性を生かした作り方や教え方に、どの子どもも引き込まれ積極的に取り組んでいた。粉に水を入れ、こねて、丸めて、伸ばして、切るなどの作業を実際に実演しながら丁寧に教えていただいた。こねる難しさ、細く切る難しさを感じながらも、自分たちで打ったそばをおいしく食べることができ、満足な表情を見せていた。

【そば打ち体験】

2、生命の大切さを知ろう（岩魚づかみから）

雨天であったが、雨具を着て行った。担当の方の話を聞き、川に入った。夢中でつかもうとする子どももいれば、触るのに抵抗をしめす子どももいたが、友だちと協力しながら全員がつかまえることができた。その後グループごとにさばき、串を差して炭火で焼いて食べた。さばく時に泣き顔になって「できない」と言っていた子もいたが、自分たちが生きていくためには必要なことであり、生きるために命をいただいているということを実感した活動であった。

＜地域の人々とのふれあい＞

1、民宿ごとの活動

最初は子どもたちの中にも不安があったが、民宿の方々が本当の家族のように接してくださったおかげで、すぐに不安は消え、とけ込むことができた。７日目には、事前に民宿の方々が計画し、準備してくださった民宿での活動を行った。岩魚の選別、わら細工、餅つき、さつまいも掘り、アケビ取り、野菜の収穫、畑仕事、おはぎ作りなど、すべてが普段体験できないことであり、子どもたちはいきいきと活動していた。また他の日にも、薪割り、栗拾いなどをさせていただき、子どもたちにとって毎日が利賀の人々とのふれあいであった。最後の夜には「お別れ夕食会」が行われ、「ありがとうの会」では歌を歌ったり、手紙を読んだりし、心を込めてグループ全員で書いた色紙を渡し、感謝の気持ちを伝えた。最終日の別れでは、民宿の方々

との別れを惜しみ、涙する子もいた。

2、利賀小学校と交流会をしよう

利賀小学校に着くと、利賀小の子どもたちが玄関で出迎えてくれた。開会式の後各班で自己紹介を行い、利賀小の子どもたちが校内を案内してくれた。その後、体育館に集まり利賀の伝統民謡である「麦屋節」を利賀小の子どもたちに教えてもらいながら踊った。男女別れて男踊りと女踊りを教えてもらった。笠を使って踊る男踊りは難しく、悪戦苦闘している姿が見られたが、何度も踊ることにより徐々に上手くなっていき、最後は全員で踊ることができた。その後、キンボールの試合を行った。最初はどう動けばいいか分からない様子の子どももいたが、教えてもらいながら徐々に動きが分かり、今まで味わったことのない楽しさを感じていた。お昼は給食を校内で食べ、利賀小の子どもたちとも仲よくなり、手紙を書く約束をしている子どももいた。午後は雨天であったため、利賀小体育館でキンボールの試合の続きを行ったり、麦屋節を全員で踊ったりした。別れの時は、別れを惜しみ最後までずっと手を振っていた。

○児童の感想

・この８日間で変わったことがあります。それはありがとうと思う気持ちです。民宿の方がごはんを早起きして作ってくれたり、いろいろな話を聞かせてくれたりしました。これからも感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。

・この１週間はとてもいい経験となりました。このような経験を何かに生かせたらいいと思います。たくさんの自然に囲まれて過ごした１週間はとても楽しかったです。

・セカンドスクールで、いろいろな思い出ができて、利賀村が２つ目の故郷となりました。この思い出は大切なアルバムとして心に残しておきたいです。

・楽しい時間はすぐに過ぎると言いますが、私にとって、セカンドスクールは８日間だというのにとても短く思えました。このセカンドスクールで学んだいろいろなことを一生忘れずにいたいと思います。

・セカンドスクールで、人は何かをするためには、動物や植物の命をもらっている。だからその命に感謝しなければならないと思いました。動植物にもらった命を大切にして生きていきたいと思いました。

・私がセカンドスクールに行って変わったことは、みんなで協力して行動することができるようになったことです。セカンドスクールで、みんなで協力することができたので、学校などでも協力してできるといいなと思いました。

・民宿のお母さんが毎日元気にあいさつしてくれたおかげで、私もみんなに進んであいさつすることができるようになりました。素直な気持ちであいさつすると、気持ちがいいなと思いました。これからも素直な気持ちで生活していきたいです。

○保護者の感想

・セカンドスクールから帰ってきた子どもの姿を見て、利賀村での体験の充実ぶりを感じました。東京では普段体験できないことをたくさん体験することができ、とてもよい勉強になっ

たと思います。

・民宿の方々には大変優しくしていただいたようで、とてもありがたく感じました。民宿では積極的に手伝いをしたようで、帰ってきてからも家の手伝いをしてくれるようになりました。
・出発日前までは、７泊という長い日程に不安もあったようですが、帰ってきてみるととても楽しくあっという間に過ぎていったようで、「また利賀村に行きたいな。もっと長い間利賀にいたいな。」と言っていました。大自然の中でとても貴重な体験ができたと思います。
・出発前の子どもの様子から、７泊もするのは無理だろうと考え心配していましたが、帰宅後の様子から８日間の充実ぶりが感じられました。この先もまだまだ心配は絶えませんが、セカンドスクールに行ったことにより、飛躍的な成長を遂げたのではないかと思いました。

○総合的な学習の時間との関連について

総合的な学習の時間に、「利賀の森は地球を守る」というテーマで学習を進めた。１学期には校庭の樹木の観察から始まり、森林のはたらきの学習を進めていくことで、私たちにとって森林がどれほど重要な役割をしているかということを学習していった。２学期には林業について学習した後に、現地での課題別学習につながるように、利賀村について調べ学習をしながら自分の課題がもてるように支援した。帰ってきてからの発表ではグループごとに追求した課題についてまとめさせ、自分たちの力で発表の方法を考えられるよう助言した。３学期は、「おにぎりパーティーをしよう」というテーマで、現地で刈り取ったお米を使ってご飯を炊いておにぎりにして食べてみようという活動を予定している。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

自分のことは自分でする、グループの人と協力しながら生活する、時間を守って行動することなど、プレセカンドスクールでの宿泊体験の成果と言える集団生活の基礎的なことが身に付いていた。学習面では、事前学習、現地での課題追究学習、事後発表をそれぞれ関連させながら取り組む学習過程がつかめていた。

○次年度に向けての反省・課題

・課題別学習では、児童一人一人の意見を取り入れ、課題を細かく設定したので、内容が広がりすぎて講師の方が指導しにくいところがあった。
・課題別学習では、講義形式になってしまうところがあった。現地でしかできない体験的な活動を必ず入れてもらえるように現地の方と細かく打ち合わせをする必要があった。
・課題別学習の午後の活動は、民宿の方との共通理解が得られていないところがあった。こちらで予め活動や課題を民宿毎に提示しておくことが必要であった。
・稲刈りからはざかけまでの仕事を十分に学ぶためには、班毎に講師がついて活動することが必要であった。鎌を使う上での安全面の配慮からも同じことが考えられる。

第三小学校　　10月15日～10月22日（7泊8日）

○日程表

１０月１５日（木）		１０月１６日（金）		１０月１７日（土）		１０月１８日（日）	
8:15	出発式	9:00	朝会	9:00	朝会	8:30	朝会
12:00	昼食	9:30	リンゴの収穫体験	9:30	農業体験（稲刈り・束ね・つるし）	9:00	尾瀬自然体験
13:00	開校式	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
15:00	周辺散策	13:30	片品北小訪問	13:00	食材作り体験（リンゴジャム作り）	13:30	尾瀬自然体験
16:00	花豆の皮むき・選別	16:00	夕方の会	15:30	尾瀬高校訪問	19:30	学習の記録
19:00	紹介の会	19:30	学習の記録	19:30	学習の記録		
20:00	学習の記録						

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

・社会科の「わたしたちの生活と食料生産」で、自分たちが日頃食べているさまざまな食材は、国内の様々な地域で生産され、届けられていることを学習した。

・「米作りのさかんな地域」「野菜作りのさかんな地域」「水産業のさかんな地域」についての学習の中で、食料生産にたずさわる人々の苦労や工夫、願いについて知ることができた。この学習によって、セカンドスクールにおいて実際に農業にたずさわる人の話を聞いてみたい、自分も体験ししてみたいという思いにつながった。

・総合的な学習の時間において、バケツ稲の栽培に取り組み、米作りの過程について学習した。生長の様子を観察・記録するとともに、農家の方々の工夫や苦労を理解できるようにした。そして、片品村の稲と比較できるようにした。

・片品村について関心をもったこと（自然・産業・交通・文化・その他）について、一人一課題をもち、図書資料・インターネット情報・観光パンフレット等を参考にして調べ学習を行いまとめたものを冊子にした。その冊子を使い、事前学習を行った。

・お世話になる民宿の方に向けて自己紹介カードを作成し、事前に送付した。「どのような子どもが来るのかがよく分かる。」と民宿の方々にも好評であった。

・片品北小学校が作成した尾瀬カルタを練習し、尾瀬に咲く花を覚えたり片品北小でのカルタ大会に備えたりした。

・片品北小学校の交流会で歌う歌や合奏する曲の練習をした。

群馬県利根郡片品村(花咲地区)

参加人数　男子46名　女子43名
計89名

１０月１９日（月）		１０月２０日（火）		１０月２１日（水）		１０月２２日（木）	
9:00	朝会	9:00	朝会	9:00	朝会	8:00	清掃・身支度
9:00	農業体験（脱穀）	9:30	川での体験	9:30	武尊牧場自然散策	9:00	各民宿での
12:00	昼食	10:30	かまど作り	12:00	昼食		勤労体験活動
13:00	食材作り体験（こんにゃく作り・うどん作り）	11:00	火おこし体験	14:00	農業体験（野菜の収穫体験）	11:00	昼食
19:00	学習の記録	12:00	昼食づくり	19:00	感謝の会	12:00	閉校式
		15:00	感謝の会準備	20:00	学習の記録	15:30	帰校式
		19:30	学習の記録				

②　事後の学習内容

・国語科「お礼の手紙」の学習実践として、お世話になった民宿の方々、尾瀬高校の生徒さんたち、指導員の先生方、片品北小学校の児童のみなさんにお礼を述べ、近況を報告する手紙を書いた。手紙の形式にあてはめながらも、お礼の気持ちが伝わる文章を書くことを心がけ、真剣に取り組むことができた。

・総合的な学習の時間でバケツで育てた稲を収穫した。乾燥・脱穀・籾すりの作業を行った後、３学期におにぎりパーティーを計画している。学校のバケツ稲作りでは、セカンドスクールでの体験に比べ、わずかなもみしか得られないことを目の当たりし、米作りの苦労を改めて知った。一粒の米をも無駄にしてはいけないという思いをかみしめることができた。

・３学期に４年生に向けてセカンドスクール報告会を計画している。体験・学習してきたことをまとめ、自分自身の振り返りとともに、４年生への意欲付けにしたい。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、川での体験・火おこし体験

民宿の近くに流れている塗川で体験を行った。今年は、風邪気味の子がおり、気温が低く川の水も冷たいので水着の着用はやめ、ズボンをまくって川へ入る体験になった。子どもたちは、寒さも気にせず川へ入り、何か生物がいないか石を動かして熱心に探していた。赤蛙やゲンゴロウなどを見つけた子もいて大喜びだった。

川に入った後は、いよいよ火おこし体験である。まずはかまど作りを行った。河原で石を拾

ってグループごとに、二つのかまどを作った。何よりも安全を優先させなくてはいけないので、しっかりと軍手をはめ、川岸に下りては一人一つ石を持ってくるという作業を繰り返した。子どもたちは、どんな石を集めたらいいかグループで話し合い、知恵を絞っていた。石を集め終わるとかまどにかける鍋の大きさや風向きを考えながら組んでいく。この間、教師や指導員は口をはさんだり、手を出したりすることを極力控え、子どもたちに試行錯誤させた。かまどができあがったら火おこしである。火おこしは、焚きつけ用の新聞紙１枚とマッチ５本だけで行う。「本当に 5 本だけですか」と不安顔のグループもある。うまくつくかどうかは自分たちで集めてきた薪が良質であるかどうかにもかかっている。ここでも、教師や指導員は、見守るだけである。子どもたちは、火をおこすために、ああでもない、こうでもないとグループごとに頭をひねっていた。マッチが最後の１本になってしまった班の子どもたちは真っ青。最後の１本は、マッチをする手が震えていた。見事に火がついたときは、一斉に「やったあ」と大歓声。満面の笑顔であった。その後、おこした火ですいとんをつくった。とてもおいしいと満足顔であった。最後は、冷えた石から一つひとつ河原へ戻し、片付けもきちんと行った。

２、尾瀬ヶ原ハイキング

尾瀬ハイキングへ行く前日、子どもたちは尾瀬高校を訪問し、当日ネイチャーガイドとして案内してくれる高校生との顔合わせを行った。グループごとに自己紹介をしたあと、尾瀬高校の施設や植物園（ミニ尾瀬）を案内してもらった。実験施設などが整っており、子どもたちは目を輝かせて高校生の話を聞いていた。また、植物園（ミニ尾瀬）では、実際に尾瀬で使われた木道が再利用され、その上を歩けるようになっており、尾瀬でのマナーや、山の歩き方などを実際に体験しながら学ぶことができた。高校生も、子どもたちの名前を積極的に覚え、優しく接してくれたため、次の日に控えた尾瀬ハイキングがより楽しみになったようだった。

いよいよ尾瀬での自然体験の当日。天気にも恵まれ、高校生にガイドをしてもらって元気に出発した。ガイドの高校生は、尾瀬の歴史や、植物の名前、周囲に見える山々の名前や川の生物についてなど、途中立ち止まりながら、子どもたちにていねいに話してくれた。子どもたちも、質問をしながら、興味深く話を聞いていた。ちょうど紅葉も見事な時期であり、子どもたちも自然の雄大さや美しさに感動しながら歩くことができた。また、道ですれ違う人たちに元気にあいさつしたり、疲れてくるとグループ内で声をかけあったり、自然の中でのさわやかな交流もたくさん見られた。高校生たちが、子どもたちの体力を考えながら歩いてくれたり、励ましたりしてくれたおかげで、楽しく安全にハイキングすることができた。

３、武尊牧場自然体験

民宿からマイクロバスで約 20 分のところに、武尊牧場がある。バスで上がった山頂は、白樺の木々が立ち並ぶ広々とした高原で、周囲を見渡すと武尊山の連峰、そして遠くには富士山も見ることができた。森には自然観察のための遊歩道があり、今回は現地の２名の指導員の方の案内で約１時間トレッキングをした。奥に入ると遊歩道は、ブナの原生林に囲まれており、子どもたちはふかふかな落ち葉の上を、指導員の先生の説明を聞きながら歩いた。途中で白樺やブナの木の話を聞いたり、ブナの実を拾ってみたりするなど、楽しみながら活動をしていた。特にブナの実拾いには興味をもち、指導員の先生から食べられると聞くと、落ち葉の中からいくつも探しだし、「ピーナッツの味がする」と嬉しそうに食べている子もいた。遊歩道の途中には涌き水が飲める水場もあり、その冷たさとおいしさに子どもたちは感激していた。遊歩道の

散策後、広場で遊ぶ時間を取った。草の上を班の友だちと走り回ったり、転がったりし、尾瀬とはまた違う高原の自然を満喫することができた。

4、イナゴ捕り

田んぼでの稲刈りや脱穀の後は、みんなでイナゴ捕りをした。初めは「嫌い、怖い」と言っていた子たちも、いつの間にかこつをつかみ、素手で何匹も捕まえられるようになっていた。中には「生まれて初めて虫を触れた」と喜びながら、自分で捕ったイナゴを大事そうに担任に見せにきてくれる女子もいた。捕ったイナゴはペットボトルや布袋に入れ、民宿に持ち帰り、イナゴ料理の名人のいる宿の方に佃煮にしてもらった。「さすがに食べるのは無理」と大騒ぎしていた子どもたちも、恐る恐る口に入れてみると「とてもとおいしい」と大喜びだった。山盛りのイナゴの佃煮を完食してしまった。

＜学習体験活動＞

1、農業体験（稲刈り・脱穀）

民宿の方々をゲストティーチャーとして招き、稲刈りと脱穀の体験を行った。まず、三日目には稲刈り体験として、「刈り取り」「束ね」「つるし」「落ち穂拾い」までの一連の作業を行った。民宿の方に鎌の使い方を教えていただき、グループごとに稲を刈っていった。最初は鎌を使って刈ることに恐る恐るだった子どもたちも、慣れてくると無言で作業を進めていった。作業の中で一番難しかったのは「束ね」だった。わらを使って、刈り取った稲をしっかりと結ばなければならない。最初は、結び方が弱く、つるす前にほどけてしまうものもあったが、民宿の方に教えてもらいながら、何回も束ねる作業をするうちに、固く結べるまでになった。民宿の方にもほめてもらい、嬉しそうに作業していた。とても大変な作業だったが、みんなで協力し、予定していた田の稲をすべて刈ることができた。実際に、体験をしてみて昔の農家の方々の苦労を感じることができたようである。作業の後、きれいに刈り取られた田を眺めながら子どもたちは達成感を味わっていた。

【脱穀をしている様子】

五日目は、脱穀の仕方を教えていただいた。つるしてある稲を脱穀機に入れ、残ったわらを縛って束ねる作業をした。脱穀機を使うため、安全については事前に指導をした。子どもたちは、一瞬で脱穀してくれる機械に興味津々で、稲をもって行列を作るなどはりきって作業に取り組んだ。途中で、もみの入った袋（30 キロ）を民宿のおじいさんが一人でトラックに運ぶのを見て、自分たちから「手伝います」と声をかけたが、あまりの袋の重さにびっくりしていた。結局子どもたちは４人掛かりで積み込んだが、軽々と運ぶおじいさんに力自慢の男子たちも「すごい」と感服していた。最後は、全員でしっかりと落ち穂拾いを行った。

2、片品北小学校との交流会

昨年度から引き続き２回目となる片品北小学校との交流会を行った。片品北小学校は、全校児童 60 数名の小規模校である。今年度も全校を挙げて私達を迎えてくれた。まず、互いに代表者があいさつをしたあと、片品北小の子どもたちがポスターセッションをしてくれた。４年生

から６年生までが、一人ずつ尾瀬の自然についてテーマを設定し、調べ、まとめたそうだ。尾瀬の植物や動物、環境の問題など、写真や絵をつかって一生懸命紹介してくれた。三小の子どもたちも、静かに発表を聞き、感想や質問をして尾瀬についての知識を深めることができた。

続いて、音楽の交流を行った。北小の子どもたちからは合唱のプレゼント、三小の子どもたちからは、歌と金管、木管、リコーダーを入れた合奏のプレゼントをした。その後、三小の五年だけの吹奏楽団の演奏で一緒に「ビリーブ」を合唱した。体育館に互いの声が響き合い素敵な音楽の交流になった。

【北小とのカルタ大会の様子】

互いに演奏を披露したあとは、尾瀬カルタ大会を行った。このカルタは片品北小学校の卒業生が在学中に描いた尾瀬の花などをカルタにしたものである。昨年度もカルタ大会は行っており、昨年の５年生から北小の子どもたちは強いという話を聞いていたので、子どもたちも事前に練習を積んでいた。しかし、やはり北小の子どもたちは強く、かなわなかった。下級生に負けて悔しがっている子もいたが、みんな笑顔で盛会のうちに交流会を終えることができた。北小の子どもたちは、学校を出るまでずっと手を振って見送ってくれた。三小の子どもたちも、バスの中から精一杯手を振り返していた。心温まる交流会となった。

＜生活体験活動＞

1、民宿の方とのふれあい

89 名の子どもたちが 12 軒の民宿に分かれて宿泊した。最初は、不安顔で遠慮がちだった子どもたちも、一緒に過ごすうちに宿の方ともうち解けていった。畑で収穫の手伝いをしたり、台所で一緒に食事を作ったり、こたつで語り合ったり、それぞれが家族のように民宿の方と関わらせてもらった。最後の夜は、感謝の会を開いた。手紙を贈ったり、リコーダーや歌のプレゼントをしたり、カルタをして遊んだりと各宿とも心のこもった会になった。これまでの日々を思い出し、別れの寂しさのあまり泣き出してしまう子も多く、感動的な会になった。

８日目の勤労体験活動では、民宿の方へ感謝の気持ちをこめて、清掃をしたり、農作業を手伝ったりした。なかには、初めてふとんをほした子や、初めて風呂掃除をしたという子どももいて苦戦していたが、民宿の方から「ありがとう」と感謝してもらい嬉しそうであった。

○児童の感想

・私は、セカンドスクールを通して、たくさんの発見をしました。一つは、「友達」の大切さです。友達がいたから協力したり、苦しいときや悲しいときに励ましあったりすることができました。二つ目は、「感謝」の気持ちです。民宿の方には、この８日間で迷惑をかけたりすることがたくさんありました。本当にお世話になったと思います。これからは何事にも感謝して、一日一日を過ごさないといけないなと思いました。

・自然の中で活動したり、リンゴジャムやうどんを作ったりなど初めてのことがたくさんあったが、みんなと協力して乗り越えることができた。精神的にも体力的にも、とても成長した日々だったと思う。

・私が学んだことは、「感謝の気持ち」です。８日間お世話になった民宿の方に「ありがとうございます」という言葉を 20 回以上言えたと思います。最後の勤労体験では、一生懸命働きました。民宿のおばあちゃんの顔は、今までにないくらいうれしそうな顔でした。

○保護者の感想

・家庭ではなかなかやらせることのできない経験をたくさんさせてもらい、感謝しています。子どもも家に帰り、片品村での思い出を嬉しそうに話してくれました。「一生懸命活動してきた。」と満足そうです。
・セカンドスクールを終え、自分から早寝早起きをするなど生活リズムを整えようと気をつけるようになりました。また、お手伝いも進んでしてくれるようになりました。
・これまでより好き嫌いなく食べようと努力するようになりました。

○総合的な学習の時間との関連について

５年生の総合的な学習の中心的な学習として、セカンドスクールを位置付けた。セカンドスクールでは稲刈りや脱穀の体験をしたが、収穫体験だけでは子どもたちは米作りの工夫や苦労を実感することはできない。そこで、４月から総合的な学習の中で一人一つのバケツで稲を育てた。社会科の学習で学んだことも活かし、米作りを実際に体験させることができた。

３学期に４年生に向けてセカンドスクールについて伝える発表会を行う。活動内容だけでなく、そこで学んだことや感じたことなどもわかりやすく伝えられるよう指導する。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・集団生活における基本をプレセカンドスクールで身に付けていたので、規則正しく生活することができた。また、友達と大きなトラブルを起こすこともなく、落ち着いて生活することができた。
・ホームシックになる子も少なく、充実した８日間を過ごすことができた。
・この行事を支えてくださっている人々がいることを理解し、かかわる方々に感謝の気持ちをもって接することができた。

○次年度に向けての反省・課題

・昨年度の反省をふまえ、片品村到着後の昼食を体験館でとらせてもらった。トイレも完備させており、万が一雨天でも室内を利用させてもらうこともできるので大変よかった。
・体調を崩す児童が多かったため、手洗いうがいの徹底はもちろん、マイクロバスでの移動や、交流の際はマスクを着用させた。マスクが足りなくなる児童も多かったので、予備なども多めに持っていく必要があった。本年度は途中交代の教員に持参してもらった。
・夜間に熱を出す子が多く、沼田市まで連れていくのが大変であった。近くで夜間でも診察できるところを探したい。近くの診療所がコピーの保険証で受け付けてもらえないのが厳しかった。
・米の収穫が中心の体験であるので、来年度からプレセカンドスクールで田植え体験をさせたい。

第四小学校　　6月5日～6月12日（7泊8日）

○日程表

６月５日（金）		６月６日（土）		６月７日（日）		６月８日（月）	
8:00	学校集合･出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
8:30	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
13:30	戸狩到着､開校式	9:00	田植え体験	9:00	ブナの森を見よう	9:00	林業体験･お別れの会
15:00	はし作り	12:00	昼食	12:00	昼食､宿舎へ戻る	12:00	昼食、宿舎へ戻る
17:00	健康観察	13:30	課題別学習	13:00	飯山の歴史について	13:30	課題別学習
18:00	夕食	14:30	宿ごと体験	14:30	課題別学習	17:00	健康観察
19:00	入浴	17:00	健康観察	17:00	健康観察	18:00	夕食
20:00	語らいの時間	18:00	夕食	18:00	夕食	19:00	ｷｬﾝﾌﾟﾌｧｲﾔｰ
	今日のまとめ	19:00	入浴	19:00	入浴	20:00	入浴
21:30	就寝	20:00	語らいの時間	20:00	今日のまとめ	21:00	語らいの時間
			今日のまとめ		手紙を書く		今日のまとめ
		21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

〔４月中旬～４月下旬〕オリエンテーションを行い、飯山市についての大まかな情報やセカンドスクールまでの学習の進め方などの説明をした。

〔４月下旬～５月下旬〕各自､関心をもった事柄をもとに事前の調べ学習の課題を選択し､個々で課題解決に向けて取り組んだ。またテーマごとにグループをつくり、意見交換などを通して課題を深めていった。その際、以下の資料等を手がかりに進めた。

・ホームページ　　・観光パンフレット
・観光協会の方に送ってもらった資料

＜子どもたちが選択したテーマ＞

・飯山の生き物　・飯山の歴史　・飯山の植物　・飯山の農業
・飯山の伝統工業（飯山仏壇）　・飯山線　・飯山の山、川　など

②　事後の学習内容

セカンドスクールから帰り、個々の課題について事前・現地で学んだことを新聞にまとめた。現地で実際に見たり聞いたりしてきたことや、いただいてきた資料などを活用しながら活動を進めた。

長野県飯山市戸狩

参加人数　男子35名　女子27名
計62名

６月９日（火）		６月１０日（水）		６月１１日（木）		６月１２日（金）	
6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	ハイキング	9:00	わらぞうり作り	9:00	焼き板体験	8:00	荷物整理、部屋掃除
12:00	昼食（べんとう）	12:00	昼食	10:00	笹寿司作り	9:30	閉校式
16：00	自由散策	13:30	手すき和紙体験	12:00	昼食	10:00	戸狩出発
17:00	健康観察	17:00	健康観察	13:00	雪国のくらしについて	12:00	昼食
18:00	夕食	18:00	夕食	14:30	セカンドスクールを	16:00	学校到着
19:00	入浴	19:00	入浴		まとめよう	16:30	解散
20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間、今日のまとめ	16:00	宿の方々への手紙		
	今日のまとめ	21:30	就寝	17:00	健康観察・入浴		
21:00	就寝			18:30	お別れ夕食会		
				19:30	感謝の交流会		
				20:00	今日のまとめ		
				21:30	就寝		

現在、12 月初めに予定している学習成果発表会に向けて準備を進めている。体験活動を通して学んだことをグループごとにじっくりと振り返ったり、お互いの発表を見合ったりしながら準備や練習に取り組んだ。また、来年度セカンドスクールに行く４年生が「楽しそうだな。」「待ち遠しいな。」と思えるように、発表の仕方にも工夫をこらした。

さらに同日、現地の宿舎の方々と指導員の方々を本校に招待し、体育館で保護者も交えた『セカンドスクール交流会』を実施する。ここでは、感謝の気持ちを込めて宿ごとにセカンドスクールでの思い出を寸劇などで表現する。児童、保護者、戸狩の方々の三者が顔を合わせた心温まる交流会で、戸狩の方々との心の交流をさらに深めていきたい。

○特色ある活動内容

・箸作り

開校式の後、各宿に分かれた児童たちの最初の活動が箸作りである。これから毎日、食事で使う箸であり、セカンドスクールがいよいよ始まったという喜びと程良い緊張感もあって、夢中で竹を削っていた。作っているところを見ているだけでは感じられないむずかしさに戸惑いながらも、分からない点やコツを宿の方が丁寧に教えてくれたおかげで完成した箸。形は整っていなくても、今も家で使い続けているという児童も多い。この体験で、児童と宿の方との距離が縮まり、ここから関係が深まっていく。

・田植え体験

初めに稲作と田植えについての講義があり、待ちに待った田植えである。始めは「気持ち悪い」「ヌルヌルする」という声もあったが、しばらくすると「土の感触が気持ちよく感じるようになってきた」「楽しい」という感想に変わってきた。苗の間隔や足のぬき方などの指導を受け、泥にまみれながらも一生懸命に苗を植えていく。今年は、宿の方がロープを用意してくれ、それに沿って一列ずつ植えたので、とてもきれいな仕上がりとなった。自分たちが植えた田を眺めた児童は満足そうな表情を浮かべていた。

【田植え体験】

・宿ごと体験

各宿の方々がそれぞれの宿の特色を生かした体験学習を用意してくださる時間である。都会ではできない貴重な体験学習に児童たちは楽しく生き生きと取り組んでいた。メニューは次の通りである。

・うちわ作り　・竹馬作り　・そば打ち体験　・笹餅作り（２宿）　・豆腐作り

・課題別学習

事前の調べ学習で調べたことを確かめたりさらに発展させたりする場として、期間中３回設定した。①飯山の農業②飯山の歴史（伝統工芸）③飯山の川・生き物④飯山の植物の４つのグループに分かれて活動し、宿の方や地元の方々へのインタビュー、写真撮影、観察など、それぞれの課題ごとに多様なフィールドワークを展開することができた。

・ブナの森を見よう

新潟との県境近くにある茶屋池周辺のブナの森を散策した。雪の重みにうち勝って育つブナのたくましさやブナの森の役割、さまざまな動植物の生態などについて、「森の家」の講師の方から詳しく話を聞きながら散策をした。立ち止まって５分間、目を綴じてよく耳を澄ませてみると、静けさの中にも小鳥のさえずりや風で木々がざわめく音などが聞こえてきた。子どもたちは、実際に木々の葉や実に触れながら、たくましく生きるブナの姿を目の当たりにすることができ、自然の知恵や不思議、尊さを感じていた。

【ブナの森を見よう】

・林業体験

始めに、森林を守ることの大切さや具体的な方法についての話を聞いた。次に、チェーンソーを使って大きな木を伐採するところを見せていただいた。１本目は周りの木々に絡まって上手く倒れなかったが、２本目は枝と枝、葉と葉がぶつかりながら音をたてて倒れていく様子を見ることができ、子どもたちから歓声があがった。どの木を伐採するか、また、倒す方向を考えていることも学んだ。そして今度はグループに分かれて、枝が密集して日光が当たらなくなってしまった場所で、のこぎりを使った間伐体験を行った。考えていた以上に枝

を切り落とすことが大変だということを知り、のこぎりの使い方や枝の選び方を教わりながら、子どもたち同士で協力し合いながら取り組んでいた。

・わらぞうり作り

【わらぞうり作り】

５年生の国語の教材に、『わらぐつの中の神様』という物語がある。その中で、主人公のおみつさんが見よう見まねでわらぐつを編む場面がある。子どもたちにも授業で扱った『わらぐつの中の神様』の主人公のように、わらぐつを編むための苦労を感じて欲しいと思い、この体験を設定した。

宿のお父さん、指導員に教わりながら子どもたちは２時間以上座ったまま熱中してわらぞうり作りに取り組んだ。例年、設定した時間だけでは完成できない児童がいたため、宿の方が事前に編み始めの部分を作ってくださっていたおかげで、ほとんどの児童が時間内に作り上げることができた。わらぞうりの形が不格好だったり、左右の大きさが違っていたりしても、子どもたちは嬉しそうに自分で編んだわらぞうりを履いて地面を踏みしめていた。

・手漉き和紙体験

数少ない製紙工房の一つである阿部製紙工房で、伝統工芸品に指定されている内山紙を漉く体験を行った。「聞く・漉く・見る」の活動に分かれてローテーションで体験活動を行った。「聞く」では内山紙の歴史や原料、和紙の構造などの詳しい説明を聞き、「漉く」では漉き、プレス、乾燥の工程を体験してみる。「見る」では工房の中を見学し、原料のコウゾなどが和紙になるまでの過程を学習した。漉いた和紙は、セカンドスクールの後半に各自の手元に届き、子どもたちは手作り和紙の質感やあたたかみを感じていた。

・お別れ夕食会

７日目の夜は、各宿で子どもたちの企画したお別れ夕食会が催された。宿の方々に対し、８日間お世話になった感謝の気持ちを子どもたちなりに工夫して表現する。準備は、毎日の自由時間を使い、班長中心に協力して進められる。劇や歌などの出し物、色紙や手紙、手作りのプレゼントなどを宿の方々には内緒で用意する。短時間のうちにそれぞれ趣向を凝らした出し物を用意できるのも、感謝の気持ちが子どもたちの心を一つにするからであろう。

・涙のお別れ

最終日の朝、閉校式を終えた後、いよいよバスに乗り込む。子どもたちは、目を真っ赤にして宿のお父さんお母さんに別れを告げる。宿の方々も涙を流している。バスが出発すると、子どもたちは宿の方々が見えなくなるまで手を振る。その後、しばらくは会話もなくすすり泣きの声がバスの中に響き渡る。宿の方々への感謝の気持ちが言葉なしでも伝わってくる。子どもたちと宿の方々との心の繋がりは学校に戻ってからもずっと続くのである。

○児童の感想

・ぼくは、セカンドスクールの宿ごと体験で竹馬作りをしました。作り終わったとき体力はほとんどなかったけれど、それから３時間くらい練習しました。練習していると竹馬を乗る前

には一歩も進めなかったのに、どんどんできるようになっていって、やっぱり人間は何事も練習すればできるし、練習しなければできないんだなとこのとき改めて思いました。

・稲を植え終わったらすごく気持ちよかったです。なぜかといったら、自分たちが植えた場所があんなにきれいに植えられていたからです。それにいろんな生き物に会ったからです。たとえばおたまじゃくし。小さいのも大きいのもいました。

・セカンドスクールで１番心に残った事は、宿のお母さん達が作ってくれたお弁当に入っていた、焼き板とメッセージカードです。メッセージカードには、「子ども達とよく遊んでくれてありがとうね。」と書いてありました。見た瞬間、また涙が出そうになりました。

・３日目は、ブナの森のハイキングをした。鳥の鳴き声や草木のゆれる音などのいろいろな音や物を東京よりとても気持ち良く感じた。

・セカンドスクールでの１番の思い出は、わらぞうり作りです。理由はひもを引っかけていた足の指の間が痛かったのと、ずっと座って細かい作業をするのが大変だったからです。でも、ぼくは大きいのが作れて、お父さんに「大きくてうまいな。」と言われて、うれしかったです。今、家の中に置いてあって、たまにそれをはいて遊んでいます。遊んでいると、その時の大変だったことを思い出します。

・きもだめしをやった。ぼくは最後だった。倉に入った。外に出た。母さんがいた。こわくて、「どこにあるの。」と、言ってしまった。そしたら、母さんが「机の上だよ。」と言った。最後の一枚の札だった。取ったとき、初めて思ったことがあった。それは、ぼくが最後だからおばけが出て、閉じこめられないかなということだ。このきもだめしは、いつまでも心に残るきもだめしだった。

○保護者の感想

・自分(親)達も体験したことがなく、子どもにもなかなか機会を与えてやれない貴重なたくさんの体験を、何より友達と共に、その中で自分のものとすることができたことは、子どもにとって本当に大きな成長の糧になったと思います。ありがとうございました。

・はし作りから田植え、わらぞうり作り、ハイキングなど、東京ではなかなか体験できないことなので、本人もとても楽しく過ごせたようです。宿のお父さん、お母さんがとても優しく、帰る日が辛かったと話していました。

・戸狩のお父さん、お母さんには、大変お世話になりました。家庭のみならず、愛情をたっぷり注いでくださるお家ができて、子どもの故郷が一つ増えたようです。

・びっくりしたのですが、夜、宿で自分の家に手紙を書いている時、お母さんに会いたくなり、班の女の子みんなで大泣きしたそうです。でも、宿のお母さんがなぐさめてくださったそうです。そんな飯山で友達と体験したこと、宿のこと、体験学習のことなど、おみやげ話を聞くことができ、本当に楽しかった様子が伝わってきました。

・「何が一番楽しかった？」と聞くと、「遊んだこと。」と返事が返ってきました。豊かな自然の中で、身体、五感を使い、たっぷり遊べるのはすばらしい体験だったのではないかと思います。

・都会暮らしでは味わうことのできない自然を満喫できるよい体験であり、武蔵野市教育のすばらしい特徴だと思うので、是非続けてほしい。

○総合的な学習の時間との関連について

本校では、セカンドスクールを５学年の総合的な学習の時間の中心的な単元として位置付けている。１学期から２学期まで、88 時間扱いの指導計画である。

◎セカンドスクールに関連した総合的な学習の時間等の指導計画（88 時間扱い）（概略）

実施時期	指導内容と単元名　　（・は主な内容）
１学期	『出会い・ふれあい…セカンドスクール』４月～７月 「飯山ってどんなところ？」（22時間） ・オリエンテーションを行い、セカンドスクールについて知らせる。 ・調べ学習テーマの選択と学習計画立案。 ・資料や取材活動、インターネットを活用した調べ学習。 ・グループごとに情報交換を行い、課題を深める。
	「セカンドスクール」６月上旬（36時間） ・現地での体験や課題別学習による課題の追求。 ・自然や現地の方々との交流、新たな課題の発見。
	『セカンドスクールをまとめよう』６月中旬 「これまでの学習をまとめよう」（２時間） ・事前学習や現地で学んだことを新聞にまとめる。
２学期	『セカンドスクールを伝えよう』10月～12月（28時間） ＜学習成果発表会＞ ・発表したい体験活動を考え、グループに分かれる。 ・グループごとに発表の内容や方法、発表の流れなどを話し合う。 ・役割分担をし、練習や準備をする。 ・グループの発表を互いに見合い、伝えるための工夫などについて話し合う。 ・４年生へ向けてセカンドスクールの発表を行う。 ＜セカンドスクール交流会＞ ・宿の方たちへの感謝の気持ちを込め、役割分担して準備を進める。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・児童が宿泊行事に対する見通しをもって準備や事前の学習に取り組んでいた。
・５分前行動や荷物整理など昨年度学習したことが、今回の集団行動や各民宿での生活に活かされていた。
・健康面や生活面で配慮を要する児童を事前に把握できたので、対応しやすかった。

○次年度に向けての反省・課題

・児童の実態を考慮しながら学習プログラムの改善を進めていきたい。その為にも現地の方々との連携をさらに深めていく必要がある。
・実施にあたっては、迅速に実行できるように観光協会との協力体制を築くことが重要。

第五小学校　　9月29日～10月6日（7泊8日）

○日程表

９月２９日（火）		９月３０日（水）		１０月１日（木）		１０月２日（金）	
8:15	学校集合	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	学校出発	9:00	テーマ活動①	9:00	登山	9:00	テーマ活動②
11:30	川場村到着	12:00	昼食		雨乞山コース	12:00	昼食
11:35	開校式	16:30	民宿帰着	12:00	昼食	15:30	ホテル SL
12:00	昼食	18:00	夕食	13:00	下山		クラフト
12:40	各民宿へ移動	20:30	学習のまとめ 健康観察	14:30	川での活動	16:30	民宿帰着
	民宿付近の散策	21:30	消灯		つり体験	18:00	夕食（バーベキュー）
14:00	加工食品体験			16:30	民宿帰着	20:30	学習のまとめ 健康観察
18:00	夕食			18:00	夕食	21:30	消灯
20:30	学習のまとめ 健康観察			20:30	学習のまとめ 健康観察		
21:30	消灯			21:30	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

【４年生１学期】

・５年生のセカンドスクール報告会に参加
　→プレセカンドスクールや、セカンドスクールへの興味関心を高める。

【４年生２学期】

・プレセカンドスクールの実施→りんご狩り体験、酪農体験等

【５年生１学期】

・観察の仕方や課題発見の仕方などを学習し、グループごとに学校の中で課題発見の事前学習を行った。また、発見した課題を解決するまでの計画を立て、どのように調べ、課題を解決するかを学習した。

・日本文化体験の事前学習として、ランチルーム和室で茶道体験を行い、礼儀作法について学習した。

・川場村より苗をいただき、学校の田んぼで田植えをした。土作りから始め、代かき、田植え、稲刈りと米作りの１年を体験した。

群馬県利根郡川場村

参加人数　男子18名　女子30名
計48名

１０月３日（土）		１０月４日（日）		１０月５日（月）		１０月６日（火）	
6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:30	稲刈り体験	9:00	テーマ活動①	9:00	日本文化体験	8:30	荷物整理
12:00	民宿帰着	12:00	昼食		茶道体験	9:30	ホテル SL
	昼食	16:30	民宿帰着		日本庭園見学		学習報告会
13:30	農業体験	18:00	夕食	12:00	民宿帰着	12:00	昼食
	りんご狩り体験	20:30	学習のまとめ 健康観察	13:00	宿ごとの活動	13:00	閉校式
16:30	民宿帰着	21:30	消灯		みんなで作ろう川場の食事	13:30	川場村出発
15:30	宿ごとの活動				感謝の会	16:00	学校帰着
	そばうち等体験			18:00	夕食		帰校式
20:30	学習のまとめ 健康観察			20:30	学習のまとめ 健康観察	16:15	解散
21:30	消灯			21:30	消灯		

②　事後の学習内容

・セカンドスクールでの体験をもとに課題を設定し、課題について調べたことを模造紙にまとめた。また、それを川場村交流会で、川場の方々に発表したり、４年生に向けて発表したりした。
・民宿の方や指導員など、お世話になった方々へ御礼の手紙を書いて送った。
・セカンドスクールでの体験を作文にまとめた。
・体験を生かし、学校の田んぼで稲刈りをした。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、テーマ活動

「川での活動」「自然体験活動」「果樹・農作物に関する活動」の３つのテーマを設定し、全部で３回の活動を設定した。２民宿で１つのグループを形成し、テーマごとに１回ずつ体験活

動を行った。ローテーションを組むことで、全員が同じ体験をできるようにした。各グループには、それぞれインストラクターがついて、子供たちは疑問に感じたことを聞いたり、川の上流・中流・下流の観察や間伐体験などをしたりした。そうした活動を通して、児童は川場の自然についての興味をもったり、日本の川について興味をもったりして、学校に戻ってからの課題設定に向けて充実した体験をすることができた。

〈 活動例① 川での活動 〉

午前・・・桜川や薄根川の上流で、流れの速さや石の大きさなどを観察し、散策する。
桜川や薄根川の中流で、流れの速さや石の大きさなどを観察したり、赤倉渓谷で水晶を探したりする

午後・・・清流公園で下流の流れの速さや石の大きさなどを観察する。
川に棲む生物を捕まえる方法を教えていただき、実際にその方法を体験する。

〈 活動例② 自然体験活動 〉

午前・・・インストラクターの方が撮った川場村に住む動物の写真のスライドを見て、動物の生態について学習する。

午後・・・間伐について学習した後、実際に山に登り、のこぎりを使って間伐の体験をする。

【間伐体験の様子（自然体験活動）】

〈 活動例③ 果樹・農作物に関する活動 〉

午前・・・川場村の畑や水田で栽培されている果樹や農作物を見学する。
川場村のマーケットで売られている農作物・加工品を調べる。
どのような農作物が栽培されていたかをまとめて発表する。

午後・・・ブルーベリー栽培農家の方の話を聞き、質問したり感想文を書いたりする。

2、学習報告会

グループでの発表と個人での発表を行った。グループでは、７泊８日の民宿での共同生活や自然体験活動などをふり返り、それを漢字１字で表して発表した。民宿ごとに「協」「思」「感」など様々な漢字で表し、協力することや相手を思いやることの大切さ、様々な体験を通して感じたこと、感動したことなどを発表した。また、個人の発表では、一人一人がセカンドスクールを通して成長したと思うことを発表し、洗濯物を干したり取り込んだりすること、食事の支度をすることなど、自分のことを自分でできるようになったということを発表した。７泊８日を通しての自分の成長を実感できたことが大切なことであった。

＜学習体験活動＞

1、稲刈り体験

民宿の田んぼを借りて、稲刈り体験をした。鎌の扱い方を教えていただき、最初は怖がっていた児童や刈るのに手間取っていた児童もすぐに慣れて、手際よく刈ることができていた。収穫できるという喜びを感じながら、楽しんで取り組んでいたが、刈ったり、干したりする活動を行っていく中で、「こんなに大変だとは思わなかった。」「農家は大変だな。」などの感想を言っている児童が多く見られた。児童は、農作物を育てることの大変さや、食べ物の大切さを実感することができた。

２、りんご狩り体験

６民宿の児童を３民宿ずつ２箇所のりんご園に分けて、りんご狩り体験をした。りんごの品種ごとの違い、りんご農家の１年の仕事などに興味をもち、多くの質問が出た。りんご農家の方も分かりやすく答えてくださり、児童は、りんご栽培への興味・関心が高まった。まとめの課題として設定している児童も多くいた。

＜生活体験活動＞

１、宿ごとの活動①

民宿ごとに「そばうち」「うどん作り」「もちつき」など様々な体験をした。ほとんどの児童が初めて体験することのようで、「こんな風にして作るんだ。」「売っているもののように上手に作れない。」など、新たな発見をしたり、何気なく売っているものが実は高い技術によるものだということを感じたりしていた。また、食事の後には「自分で作ったからおいしく感じた。」「残さず食べた。」などの感想が出ていた。

＜全体での体験活動＞

１、加工食品体験（おやき、ジャム、大福、コンニャク）

川場村での最初の体験として、地元の特産品を使った手作り体験を行った。児童は、同民宿の中で、おやき、ジャム、大福、コンニャクの４つの食品のどれかを担当し、それぞれが担当した食品を民宿に持ち帰り、全員がすべての食品を味わえるようにした。身近な食品でも実際に作ることは初めての児童が多く、「作り方をはじめて知った。」「お店で売っているものと味が違う。」という声が聞こえてきた。

体験が終わり、全員が集合すると互いに持ち寄った食品を見せ合い、互いに作り方や感想などを伝え合っていた。

２、雨乞山登山

朝は小雨が降っていたが、晴れる予報だったので決行した。登り始めは小雨が降っており、山道がぬかるんで歩きにくい場所や登り坂がきつく大変な場所などがあった。しかし、民宿ごとにまとまって歩き、互いに「がんばれ。」などと声をかけ合ったり、手を取り合って助け合ったりして登っていた。途中から雨も止み、頂上に着く頃には雨は上がっていた。山頂は霧につつまれ景色を眺めることはできなかったが、子どもたちは登りきった達成感に満ちた表情をしていた。民宿ごとにまとまって登ったことで仲間意識も高まった。

３、クラフト（しらかば壁掛け）

しらかばの板に、それまでのセカンドスクールの思い出を描いた。特産のりんごやブルーベリー、川や山などの自然を描いたり、宿泊している民宿の名前を入れて思い出を残したりしていた。絵だけでなく、これまでの体験活動の中で拾ったどんぐりや枝を使って巧みに飾り付けをしている児童もいた。セカンドスクールの４日目に設定したことで、これまでの活動を振り返り、残りの活動に意欲を高めるためのよい区切りとなった。

４、自然体験・釣り体験（薄根川での活動）

薄根川の水を利用している釣り堀で、ニジマス釣りの体験をした。釣り体験が初めての児童が多くおり、楽しみにしていた児童が多かった。初めて見たブドウ虫に驚きなかなか釣り針に刺せない児童もいたが、勇気を出して刺そうとしていた。なかなか釣り針に刺さらないブドウ虫の刺し方や、上手に釣ったりするこつを互いに伝え合いながら協力して取り組んでいた。釣り上げたニジマスをその場で焼いてもらっていただくと、「さっきまで生きていた魚だからかわいそう。」「こうして人間は生きているんだ。」と感想を言う児童がいて、「命をいただく」ということを学ぶ貴重な経験となった。

５、日本文化体験（茶道体験・日本庭園見学）

百花園では、たくさんの花が咲いていて、その美しさを感じ、大きな山門、数々の仏像を見て歴史を感じ、滝や池、苔などを見て趣を感じることができるお寺で日本庭園の見学と茶道体験を行った。事前に学校で作法を学んでいたことが効果的で、落ち着いて礼儀正しくお茶をいただくことができた。「茶道って楽しいね。」「お茶がおいしかった。」などの感想が多かった。日本庭園の美しさ、茶道の楽しさを体験するよい機会となった。セカンドスクールのまとめに茶道についてまとめている児童もいた。

【茶道体験の様子】

○児童の感想

・セカンドスクールでは、自分のことは自分でやらなければいけなく、それができるようになったことが成長したことだ。
・友達と協力して生活するのは楽しく、協力し合うことの大切さを学んだ。
・普段の生活よりも時間的な余裕があり、ゆとりをもって生活することができた。

○保護者の感想

・７泊８日という長い宿泊で、家族と離れ生活することができるのか心配であったが、帰ってきたときの様子を見たり、話を聞いたりしてみるとしっかり生活できていたようで安心した。
・セカンドスクールがきっかけで仲のよい友達が増え、たくさんの友達と遊ぶようになった。

○総合的な学習の時間との関連について

本校の５年生は、総合的な学習の時間において、「触れ合おう人と自然」という大きなテーマをもって学習を進めている。セカンドスクールでは、ファーストスクールでは味わうことのできない体験から、いくつもの課題を発見し、学校に戻ってからまとめを行った。

事前学習では、観察の視点のもち方、課題の設定の仕方、課題解決の方法などを学び、学校の中でその実践をした。ビオトープ、学校で飼っている動物などについて観察し、いくつもの課題を発見することができた。また、発見した課題を解決するための計画を立てたり、どのような手立てで解決していくかを考えたりもした。セカンドスクール中の課題発見の方法、ファーストスクールに戻ってからのまとめ方などを事前学習で行ってきた。また、日本文化体験では茶道体験をするので、本校のランチルーム和室を使い、茶道クラブの先生にお願いして、事前に作法を学んだ。そうした活動によって児童の課題発見能力、問題解決能力を高めることができた。また、セカンドスクールでの活動の目的を明確にもたせることができ、見通しをもたせること、体験活動への意欲を高めることもできた。

事後学習では、セカンドスクールで発見した課題でまとめを行い、問題解決能力をさらに高めたり、自己の生き方に結び付けて考えさせたりして、まとめさせた。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

本校のセカンドスクールの特色は、プレセカンドスクールと同じ場所で実施していることである。プレセカンドスクールでは、川場村を歩く活動をしているので、セカンドスクール実施の時点で既に川場村の地形や環境などを理解している。また、実施時期は、プレセカンドスクールと近い時期である。そのことにより、児童は安心感をもち、また、再び川場村に行くことができるという期待で、意欲を高くもってセカンドスクールに臨むことができている。

○次年度に向けての反省・課題

今年度から、職員の朝食と夕食を各民宿でいただくこととした。このことにより、民宿での子どもたちの様子をこれまで以上に実態を把握できるようになった。一方で、朝も夜も早い時間に職員の打ち合わせを設定することが難しくなり、次年度以降の課題となった。

昨年度までの「テーマ別班活動」を「テーマ活動」とした。これは、全ての児童に等しく様々な価値ある活動を体験させるという意図がある。このことにより、多くの課題を発見することができ、帰京後の追究課題の設定も関心の高いものを設定することができた。また、児童によっても課題が様々で、課題の種類も多岐に渡った。

体験活動に関して、りんご狩り、稲刈りなど収穫することの喜びだけを味わうことが多かった。そこまでに至る農家の方々の苦労について、お話を聞くことはできたが体験していないことであまり実感できていないように感じた。例えば、丸１日農業体験として、朝から晩まで農家の仕事を１日体験できるなどすると、楽しいだけでなく、苦労を感じたり、農家の仕事を理解したりすることができるのではないかと考える。

大野田小学校　　9月23日～9月29日（6泊7日）

○日程表

９月２３日（水）		９月２４日（木）		９月２５日（金）	
7:30	学校集合、出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
8:00	出発		洗面、寝具整理		洗面、寝具整理
11:30	昼食、 休憩（小布施ＰＡ）	6:45	朝食準備	6:45	朝食準備
13:15	戸狩到着、開校式	7:00	朝食、片づけ	7:00	朝食、片づけ
13:45	各宿舎着		ハイキング準備		活動準備
14:30	荷物整理	8:30	集合、高社山へ	9:00	課題別学習１
	はし作り	9:50	高社山ハイキング開始	12:00	昼食
16:00	民宿の方との話し合い	11:45	昼食	13:15	和紙鋤体験＆伝統産業会館・
17:00	健康観察、入浴	14:00	ハイキング終了		ふるさと館・飯山シャンツェ
17:30	夕食準備	15:15	宿舎着		見学
18:00	夕食、片づけ	15:30	課題別学習打ち合わせ	16:30	宿舎着
19:00	今日のまとめ	17:00	健康観察、入浴	17:00	健康観察、入浴
20:00	語らいの時間	17:45	夕食準備	17:45	夕食準備
20:40	就寝準備	18:00	夕食、片づけ	18:00	夕食、片づけ
	健康観察	19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ
21:00	消灯	20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間
		20:40	就寝準備、健康観察	20:40	就寝準備・健康観察
		21:00	消灯	21:00	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

・４年生３学期･･･「総合的な学習の時間」を使い、「セカンドスクールについて知りたいこと、教えてほしいこと」について当時の５年生（現６年生）に教えてもらい、セカンドスクールへの興味関心を深めた。

・５年生１学期･･･ セカンドスクールの実施場所である飯山市について、社会科において雪の多い地方の十日町と関連させながら学習を進めた。また、戸狩より稲の苗を送っていただき、学校田で稲作りに取り組んだ。

・５年生２学期･･･ 現地での課題学習のためのグループを作り、グループ課題を追究し、現地で知りたいことをまとめた。現地での生活についてのオリエンテーションを行い、係ごとの役割分担や打合せを行った。また、社会科の米作りと食育の観点から、学校田での稲の生長の様子を観察し、米についての学習を、戸狩での稲刈り体験へとつなげた。

長野県飯山市戸狩

参加人数　男子54名　女子54名
計108名

９月２６日（土）		９月２７日（日）		９月２８日（月）		９月２９日（火）	
6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
	洗面、寝具整理		洗面、寝具整理		洗面、寝具整理		洗面、寝具整理
6:45	朝食準備	6:45	朝食準備	6:45	朝食準備	6:45	朝食準備
7:00	朝食、片づけ	7:00	朝食、片づけ	7:00	朝食、片づけ	7:00	朝食、片づけ
9:00	稲刈り	8:00	活動準備	9:00	宿別体験活動２	8:00	大掃除
9:00	宿別体験活動	9:45	茶屋池周辺のブナ林		郷土料理作り		荷物整理
11:30	もちつき		ハイキング	12:00	昼食		宿の方へのお礼
12:00	昼食	12:00	昼食	13:30	課題別学習まとめ	9:15	集合、閉校式
13:30	課題別学習２	13:30	脱穀	14:30	お別れ会準備	9:30	戸狩出発
15:45	宿舎着	15:00	宿別体験活動	16:30	健康観察、入浴	11:30	昼食､休憩(横川ＳＡ)
16:30	健康観察、入浴	17:00	健康観察、入浴	17:45	夕食準備	13:30	休憩（高坂ＳＡ）
17:15	班長会	17:45	夕食準備	18:00	夕食・お楽しみバー	14:30	学校着、帰校式
17:45	夕食準備	18:00	夕食、片づけ		ベキュー、片づけ		解散
18:00	夕食、片づけ	19:00	今日のまとめ	19:30	お別れ会		
19:00	今日のまとめ	20:00	語らいの時間	20:30	今日のまとめ		
20:00	語らいの時間	20:40	就寝準備、健康観察	21:00	就寝準備、健康観察		
20:40	就寝準備、健康観察	21:00	消灯	21:30	消灯		
21:00	消灯						

②　事後の学習内容

・セカンドスクールでの課題別学習グループごとのまとめと発表を行った。プレゼンテーション作りをし、お互いに学習してきたことを発表し合った。発表会は、学年全体で行い、４年生や保護者に向けて行った。展覧会の当日には、民宿の方々と給食を共に食べ、さらに指導員の方々を交えての発表会を行った。

・お世話になった宿、指導員、看護師さんなどの方々へお礼の手紙を書いて送った。

・体験をもとに、「セカンドスクールから学んだこと」や「思い出」を作文と新聞にまとめた。

・現地（白米）と学校（紫米）の両方で収穫したお米は、家庭科の調理実習で活用する予定である。

【発表会のようす】

○特色ある活動内容

＜課題別学習＞

本校では、セカンドスクールを総合的な学習の時間を中心とした学習の場として設定し活動をすすめてきた。中でも課題別学習は、①東京での調べ学習　②現地でのフィールドワーク　③東京でのまとめと発表　というように、ファーストスクールとセカンドスクールの両方で学習をすすめるように時間を設定した。ファーストスクールでは、課題別のグループごとにまとまって学習を進められるように学年で時間を調整した。セカンドスクールでは、２回のフィールドワークとまとめの時間を設定して、現地で調べる・まとめる学習を行った。

課題作りは、昨年度の５年生の課題を参考にして、他にどのような課題が考えられるかから始めた。その中から、児童に取り組みたい課題を複数選択させ、教師の方で人数の調整を行った。さらに、事前の調べ学習では、社会科や理科の学習とも関連させたり、オープンスペースに並んでいる資料などを活用したりして学習を進めた。

出発前には、児童の設定した課題や疑問をまとめて現地に送り、現地での準備資料にしていただくようにした。現地での課題ごとの講師は、10 軒の民宿の方々にお願いした。民宿の方々は毎年行っている学習なので、活動場所や事前の資料収集などを工夫して考えていただけるという利点があった。

課題グループは以下の８つである。

○ブナの森　･･･　ブナの木・森の観察、ブナの木の果たす役割　など
○川　･･･　千曲川の様子、水温、魚や生き物、ダム　など
○雪国の暮らし　･･･　雪の多いまちのくらしの様子や工夫　など
○観光　･･･　飯山の観光地、観光客を集めるための工夫、温泉　など
○歴史・文化　･･･　飯山の歴史、城・寺の歴史、伝統工芸品　など
○農業・特産物　･･･　地元の農作物について調査・収穫、野菜の集荷場の見学　など
○米作り　･･･　水田、機械、品種の違い　など
○草花・生き物　･･･　戸狩の草花や虫の観察、スケッチ　など

児童の作成した課題に対応するために、戸狩地区だけでなく他の地域へのフィールドワークを行った。そのために移動手段としてマイクロバスの活用は有効であった。

また課題によっては、見学場所の方から話をうかがったり、実際に触れたりする機会をいただき、児童の活動に対する意欲を十分に満たすものばかりであった。

【背の高い消火器】

＜自然体験活動＞

山に親しむ活動として２つの場面を設定した。１つ目は２日目に行ったハイキングである。

今年は、ハイキングの場所を変更した。理由として、児童の安全面と事故が起きたときの対応のしやすさと、山に登り頂上からの景色を満喫することでの達成感を味合わせたいためである。そこで、６月の実地踏査のおりに、実際に歩きコースを検討、決定した。民宿や戸狩観光協会の方々も現地に赴き、さまざまな角度から検討をしていただき、当日に臨んだ。

当日は晴天で、ハイキング日和であった。足が慣れるまで時間を必要とする児童もいたが、参加した児童は全員登頂することができた。山頂からは 360 度が見わたすことができ、戸狩のスキー場や町を眺望することができた。

２つ目は、５日目に行った関田峠、茶屋池周辺のあるブナ林の中の探索である。インストラクターの方にクラス１名ついていただき、約１時間半ブナの木や森の役割やそこにかかわる生き物についてのことなどを学ぶことができた。

＜宿別体験活動＞

長年に渡って行われてきた本校の活動の特色の１つである。分宿する宿にはそれぞれの個性があり、その持ち味を子どもたちとの活動に活かすようにしていただいてきた。この活動も２回設定し、宿と連絡を取りながら実施をした。６日目は、食育とも関連させて、この地域に伝わる郷土料理や地元の食材を用いた料理などを実際に作ることを通して、地域の食文化に触れる活動を設定した。

【笹寿司を作る】

宿別体験活動実施内容・・・焼板工作、草木染め、名水巡り、おやき作り、手打ちそば、手打ちうどん作り、ジャム作り、ちまき作り、笹寿司作り、芋なます作り、にらせんべい　など

＜学習体験活動＞

１、農業体験（稲刈り、脱穀体験）

【稲刈りと脱穀】

社会科の食料生産＜米作り＞の学習における学習として、稲刈りと脱穀を体験した。戸狩は狭いながらもおいしい米を作るのに適した地域である。実際には機械化がすすみ、請け負っての稲作が増えてきているが、児童はカマを持ち手作業での稲刈りを行うことで、稲作りの苦労の一端を経験することができた。今年は刈った稲を干すためのはぜかけも行った。翌日には、はぜかけをした稲を、昔ながらの足踏み脱穀機で脱穀の体験もした。学校の水田ではできない経験をすることができた。

２、飯山の伝統的な技術を生かした工業を知る（伝統産業会館）

飯山の自然と地理的な要所と人の努力とで磨かれてきた伝統的な技術と製品。これらが解説されているのが伝統産業会館である。飯山仏壇と内山和紙は、昔ながらの技術を活用して現代でも活躍している。児童は、内山和紙の手すき体験をし、はがきを作成した。

３、飯山の生活と歴史を知る（ふるさと館）

１週間生活する飯山の人々のくらしの変遷を学習することは、地域を理解するために重要である。ふるさと館では、児童が生活の様子について児童が理解しやすいように工夫されており、人々の生活を知ることで学んだことをさらに関連づける一助となった。

○児童の感想

・稲刈りは大変でした。友だちと協力して刈ったり、まとめてしばってはぜかけをしたりしました。落ち穂拾いもたくさんしました。お米の大切さを感じました。
・宿別で作った郷土料理では笹寿司やいもなます、手打ちそばなどを作りました。民宿のお母さんに教えてもらいました。食べたらとてもおいしかったです。
・ハイキングはとても疲れました。友だちとはげまし合いながら、がんばって歩きました。頂上から見た景色はきれいでした。山をおりてきたら、お父さんたちが水を用意して待っていてくれました。飲んだらとてもおいしかったです。
・課題別学習では、川を選びました。西大滝ダムで発電された電気が、東京まで送られていることを知りおどろきました。
・民宿のお父さんやお母さんには、食べ物のこと生活のことなど、いろいろと教えてもらいました。もっと教えてもらいたかったです。また行きたいです。
・指導員さんには、お世話になりました。友だちのことでなやんでいるときに、相談にのってもらってうれしかったです。

○保護者の感想

・友だちとのこと、民宿でお世話になったこと、ハイキングことなどとても楽しかったとたくさん話してくれました。
・１週間も大丈夫だろうかと心配をしていましたが、帰ってきてからの話を聞くと子どもなりに生活をしてきたんだとわかり安心しました。
・インフルエンザが心配でしたが、実施できてよかったです。
・家の手伝いをするようになったり、自分のことは自分でするようになったりして、子ども成長を感じました。

○総合的な学習の時間との関連について

多くの活動の中でも課題別学習は、児童が課題を作り、その課題解決に向けて調べ・まとめ・発表をするという学習過程を設定している。まさに総合的な学習の時間に合う学習活動である。調べ学習も現地に行き、実際に目で見、耳で聞き、肌で感じてきているので、本やパソコンなどで調べた学習と異なり、児童が自分の言葉でまとめ、発表ができるのが特長である。

また、来年行く４年生に向けて発表をすることで、学校としての縦のつながりを意識したり、４年生のセカンドスクールへの動機付けにもなっている。

今後も続けていきたい。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

プレセカンドスクールで宿泊体験をしてきているので、宿での基本的な生活への心配は少ない。そのために心にゆとりができ、現地での活動に落ち着いて取り組むことができた。ホームシックになる子どもがとても少なかった。

○次年度に向けての反省・課題

・１週間という期間のために子どもの心身の健康管理が重要となる。そこで、生活指導員が果たす役割は大きい。今年は１民宿 12 名という数であったが、子どもが多用化している今日、現地で子どもと共に生活をする指導員に負うものは多い。児童は男女おり、その生活を支える指導員も男女いた方が、問題の早期発見早期対応につながると考えられる。今回、１民宿に指導員が１名配置したところと２名配置したところがあった。やはり２名体制の方が児童に目が届き、児童の方も安心して生活ができていた。予算の面で厳しいという現実があるが、セカンドスクールで児童を育てるために、心の安定をサポートしてくれる指導員の増員は望むところである。

・看護師の役割も同じように大きい。各校１名配置となっているが、本校のように大規模校で病人やけが人が多い場合、一人対応には厳しいものがある。例えば、具合の悪い子がいて、看護師が付きそう必要がある。一方では多くの児童が戸外で活動している。そのときの児童への対応が薄くなることへの心配である。看護師の数も１校１名という規定を児童の数によっては複数配置を望みたい。

・多くの活動があり、担任としては、あれもこれもやりたいと思う。しかし、時間は限られているので内容の精選は必要である。

・児童の活動は、意図的計画的に行わなければならない。ただ体験をすればいいというわけではない。本校の場合、宿別体験活動がある。前述したように、宿の持ち味を生かした活動である。反面、教育の場でありながら、宿にイニシアチブを握られている面を感じざるをえない。そこで、当たり前のことではあるが、学校側イニシアチブを取った宿別体験活動を考え実施するときにきている。

境南小学校　　9月17日～9月24日（7泊8日）

○日程表

９月１７日（木）		９月１８日（金）		９月１９日（土）		９月２０日（日）	
7:00	学校集合	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
7:15	出発式・出発	6:45	朝会・朝食	6:45	朝会・朝食	6:45	朝会・朝食
8:30	談合坂ＳＡ	9:00	稲刈り	9:00	フィールドワーク	8:30	ハイキング
10:40	姨捨ＳＡ		今と昔の稲刈り比べ	11:30	戸狩小運動会参加	10:00	ビートルフォー着
12:00	飯山着・開校式	12:00	昼食	12:15	昼食（お弁当）	11:30	とんだいら着
12:30	民宿着・昼食	13:00	脱穀	13:00	フィールドワーク		昼食（お弁当）
14:00	稲刈り・はぜかけ	14:50	トピアホール発		再開	13:30	野菜のかぶりつき
	落ち穂拾い	15:00	おやき作り	15:30	栗拾い	14:00	とんだいら発
16:00	夕会・検温・入浴	16:00	夕会・検温・入浴	16:00	夕会・検温・入浴	16:00	夕会・検温・入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
20:00	夜空の観察	19:00	民話を聞こう	20:00	部屋替え	19:00	手紙を書く
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

・稲刈りを通して食の大切さをしっかりと学ぶために、５年生の１学期に学校の水田へ田植えを行い、しろかき・草取り・水の管理を経験した。

・セカンドスクール期間中、民宿での食生活に使用する箸と箸入れをそれぞれ図工と家庭科の時間に作成した。

・千曲川での俳句活動をスムーズに行うために、国語の時間に俳句の書きかたを学習した。

・フィールドワークへ向けて、１学期から夏休みにかけて自分の調べたいことを決めたり調査方法を考えたりするなどの調べ学習を行った。

・２クラス合同でスケジュールや持ち物の確認を行ったりする時間を多くとることで、集団生活に戸惑うことがないように配慮した。

・セカンドスクールへ向けて全体のスローガンを決め、集団行動の大切さ、努力、協力などの意識を高めた。

・４年生のときに、５年生のセカンドスクールの発表会に参加をし、セカンドスクールに向けて関心を高めた。

・戸狩小の運動会にスムーズに参加できるよう、ヨサコイソーランやグループに分かれる練習を行った。

長野県飯山市

参加人数　男子41名　女子30名
計71名

９月２１日（月）		９月２２日（火）		９月２３日（水）		９月２４日（木）	
6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
6:45	朝会・朝食	6:45	朝会・朝食	7:15	朝食（朝会中止）	6:45	朝会・朝食
8:45	民宿発	9:00	フィールドワーク	9:00	お別れ会の準備	9:10	閉校式
	ブナ林散策	12:00	笹寿司作り		（※ボランティア	9:30	戸狩発
10:30	ブナ林発		（昼食）		活動雨天中止）	11:45	双葉ＳＡ着（昼食）
11:00	千曲川で俳句作り	13:30	やしょうま作り	11:30	もちつき・昼食	12:45	双葉ＳＡ発
12:00	昼食	16:00	夕会・検温・入浴	14:00	神楽と舞いの見学	15:00	学校着
14:00	ネギ取り	18:00	夕食	15:30	夕会・検温・入浴	15:10	帰校式
14:30	ネギ焼き	19:00	荷物整理	18:00	夕食	15:30	解散
16:00	夕会・検温・入浴		お別れ会打ち合わせ		バーベキュー		
18:00	夕食	20:30	夜祭り見学	19:30	お別れ会		
21:00	消灯	21:45	消灯	21:00	消灯		

②　事後の学習内容

・セカンドスクール終了後、感想文を書くことで振り返りをした。
・セカンドスクールでの農業体験を生かし、学校で育てていた稲の刈り取り・はぜかけを行った。今後、脱穀やもみすり、精米などの体験活動を行い、おにぎりにして食べる予定である。
・フィールドワークで調べたことを児童一人ひとりが原稿用紙にまとめた。１学期に行った調べ学習のまとめも含め、今後はパソコンを使って清書をしたのち、製本してセカンドスクール全体のまとめをする予定である。
・米作りの大変さを経験したことから、食に対する意識の変化が少しみられた。1 学期から継続していることだが、給食の残飯が出ないように呼びかけたり、苦手な食べ物も作り手の気持ちを考えて食べたりと給食指導につなげている。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、ハイキング

４日目にとんだいらハイキングを行った。朝食を食べて準備を済ませた後、集合時間に遅れないよう民宿ごとに集まった。事前にスズメバチ・クマ・ヘビに出会った時の対処方法を学び、いよいよ出発。まずは民宿から歩いて 30 分程の「星降るレストラン」を目指す。前日から体調の優れない児童は本人の意思を聞き、車で目的地まで送ることにした。

「星降るレストラン」でトイレ休憩をとった後、いよいよ坂道を登りとんだいらを目指す。なだらかな舗装道路を、隊列を組んで足取りも軽く進んでいく。ちょうど良い気候に、汗をタオルで拭きながらも児童は気持ちよさそうである。途中、沢があり木かげで休憩をとる。一休みすると児童はすぐさま沢に駆け寄り、冷たい山水に触れ思わず「気持ちいい！」。石を動かして沢蟹を見つけたり、ダムをつくって水遊びに没頭したりするなど思い思いに満喫した。

ビートルフォーでは素晴らしい景色を観た感想を俳句で綴り、とんだいらでは広々とした空間で思い切り遊んだ。さらに民宿の方が用意してくださった新鮮な野菜に舌鼓を打った。「東京で食べる野菜とは全然違う！」と野菜が苦手だと言っていた児童もおかわりをリクエスト。帰りは疲れもあったが、五感をフルに使った１日に満足し、たくさんの笑顔がこぼれていた。

2、星空観察

東京では見られない星空を観察しようと民宿ごとに懐中電灯を持って星空が見やすい場所を探す。周りに大きな建物がなく、また明かりがないことから道は真っ暗で、それもまた良い経験になった。暗闇にも目が慣れ、夜空を見上げるとそこには天の川。感嘆の声があがり、車も通らないあぜ道に寝転がって堪能する児童もいた。東京では味わえない自然の素晴らしさを実感することができたのではないだろうか。

3、ブナ林散策

５日目、午前中にブナ林散策へ出かける。寒さ対策のため雨かっぱを着込んで民宿の方をインストラクターに茶屋池の周囲を歩く。ひんやりとした空気感が心地よく、珍しい植物にであうと丁寧に説明してくださり楽しい一時を過ごす。途中に巨大ナメクジや変わったキノコに遭遇し、児童も大喜びで「自然ってすごい」とつぶやく児童もいた。

＜学習体験活動＞

1、農業体験（稲刈り、はぜかけ、脱穀）

１日目の午後と２日目の午前に稲刈り体験をした。飯山に到着して最初の活動に心を弾ませ、まず株のつかみかたや鎌の使い方の指導を受ける。そして民宿ごとに分かれ、稲刈りを行った。慣れない手つきで刈っていた児童も作業の終わり頃にはこつをつかみ、稲刈りに夢中になっていた。

刈り取った稲は、教わった通り２～３本のわらを使って２つの束を交差させ、重なったところを結んでいく。頑張ってたくさんの束を作ってはぜかけまで行った。

２日目は、昨日刈り残していた稲を使って、機械を使った稲刈りと手刈りとの作業効率を比較した。１分間で何株刈れるのか経験した後、バインダーやコンバインといった機械での稲刈りを観察する。観察前に予想で何株か児童に考えさせ、いざスタート。あまりの効率の良さと想像以上の結果に「すごい！」と声が上がった。今回５時間以上かかった稲刈りがコンバインを使うと 10 分程で終わるという説明を聞き、機械の便利さと手作業による稲刈りの大変さを感じた。

午後には自分たちで刈った稲束を脱穀した。昔ながらの千歯こきによる脱穀や足踏みの脱穀機での脱穀を一人ひとりが体験した。お米作りの大変さを体験したことでお米を大事にしようという思いが芽生え、落ち穂拾いにも一生懸命取り組んだ。

２、農業体験（野菜の収穫）

食べ頃になって落ちている栗を拾い、民宿に持ち帰り栗に傷をつける。また、民宿ごとにそれぞれの畑で育てているネギを１人１本ずつ収穫し、その後、栗も持ってたき火が用意してある田んぼに向かう。稲を刈った後の田んぼには民宿ごとにたき火が用意してあり、ネギと栗を焼いて食べた。

マッチで火を点けることから始めたが、失敗しても良い本数は５本と決められ、慎重に火を点けるがなかなか火が起きない。成功したグループの真似をするなど工夫をしてようやく全グループから白い煙があがった。

焼き上がったネギはほんのり香ばしい匂いがあり、塩も醤油も何もつけずにそのまま口に運ぶ。食べた瞬間「うまい！」「甘い！」など感嘆の声があがり、ネギの本当のおいしさに野菜嫌いの児童も丸々１本完食するほどだった。

＜生活体験活動＞

１、やしょうま作り

古くから伝わる郷土料理の１つである「やしょうま」作りに挑戦した。もとになる材料は普段食べているお米を粉にした米粉である。

作り方はまず、すり鉢に米粉、砂糖、塩を入れてよく混ぜる。そこに熱湯を入れてしっかりこねていく。だんだん生地がしっかりしてくると、もちもちとしたまるでお餅のようになってくる。生地が完成するとそれを半分に分け、一方にはゆでた黒豆、もう一方にはごまを入れてよくこね、細い棒状にする。蒸し器で 30 分ほど蒸したら粗熱をとり、ラップに包んで形を整える。１㎝くらいの厚さに輪切りをして完成。

ういろうのような食感でほのかに甘いやしょうまは、とても素朴でおやつ感覚で食べられることから児童にも大好評だった。

２、笹寿司作り

６日目の昼食には笹寿司を作って食べた。笹寿司は笹の葉の防腐効果をうまく利用した郷土料理である。作る前に民宿のお母さんから笹寿司は江戸時代の上杉謙信の戦陣に振る舞われたという話を聞き、その後一人ひとりが笹寿司を作り食べた。ご飯の上に乗せる具はかんぴょう、しいたけ、ぜんまいといった普段食べ慣れないようなものだったが、おいしいそうに作った物

は完食し、まだまだ食べられるという声もあり郷土料理は大好評だった。

3、餅つき

民宿ごとに杵と臼を用いて餅つきを行った。順番に杵をついていき、交代しては「そーれ、そーれ」と声をかけてみんなで盛り上がった。初めて餅つきをした児童が多く、少し重い杵に振り回されうまくつけない児童もいたが、楽しんで活動ができた。

つきたてのお餅は柔らかく、きなこやごまをつけて食べるシンプルながら飽きない味に食が進んだ。食べ盛りの児童は10個以上食べてもまだ食べられると言うなど、つきたての餅の味は忘れられないものとなった。

＜地域の人々とのふれあい＞

1、戸狩小学校での運動会

今年は連休がセカンドスクールと重なり、毎年行っていた戸狩小学校の５年生との交流会は中止になった。代わりに、連休中に行われる戸狩小学校の運動会に参加をすることになった。午前中にフィールドワークがあり、バラバラに活動するため集合時間を決め、民宿ごとに戸狩小学校に集まった。計画していた時間より早く進行していて、慌ただしくなったというハプニングがあったものの集団行動にも慣れ、児童は臨機応変に動くことができた。

ヨサコイソーランを披露した後、大玉運びや縦割り班での競技に参加をした。ゆっくり交流をすることはできなかったが、一緒に競技を行ううちに少しずつ笑顔が見られるようになった。終わりには仲良くなって名前を呼び合う児童もいて、楽しく参加をすることができた。

2、民話を聞く

地域の語り部の方に民宿まで来ていただき、飯山に伝わる民話を聞いた。読み聞かせが大好きな児童が多く、知っている話が出ても語り部さんの迫真の語りに終始聞き入っていた。３話ほど聞かせていただいたが、あっという間に予定の１時間が過ぎた。

○児童の感想

・稲刈りで、はじめは（ちゃんとできるかな・・・）と思ったけど、先生が「上手だね」と言ってくれたので嬉しかった。
・セカンドスクールに行くことが楽しみで楽しみでしかたなかった。あっという間に終わってしまった気がする。民宿のお父さんやお母さんに来年も会いに行きたい。
・民宿でのご飯はどれも最高で、一生の思い出になった。
・一番心に残っているのが餅つきだ。苦労してついたあの餅の味は忘れられない。
・ハイキングでとんだいらという広いところで思い切り遊べたのは気持ちよかった。

○保護者の感想

・セカンドスクールから帰ってくると、自分から動く姿が見られるようになったと思う。
・好き嫌いをあまり言わなくなり、ご飯をよく食べるようになって驚いた。

・ホームページが毎日更新され、細かく活動内容も載っていたので安心して子どもを見守ることができた。
・今まであまり関わりのなかった子とすっかり親友になって帰ってきたのを見て、よかったなあと思った。

○総合的な学習の時間との関連について

１学期には「米作りにチャレンジ」を学習テーマに、学校水田を活用してしろかき・田植え・草取り等の活動を行った。また、課題別学習の前段階として校内の植物調べや、学区の標識調べを行った。

２学期はフィールドワークで調べたことを原稿にまとめた。１学期に育てた稲が実り、稲刈り・はぜかけ・脱穀を行った。３学期には精米をし、おにぎりを作って味わう予定である。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・７泊８日という期間もホームシックにかかる児童もみられず、精神的にゆとりをもって活動に参加をすることができた。
・自分の荷物は自分で準備したり、時間を守って行動したりするなど主体的に動くことができるようになった。
・指導員や地元の方々と打ち解け、初めての体験にも積極的に取り組むことができた。

○次年度に向けての反省・課題

昨年度に引き続き、全ての民宿に指導員を２人ずつ配置いただいたので、安心して活動に取り組むことができた。また、看護師の方の手洗い・うがいや体調管理のきめ細かい指導のもと、徹底することができた。次年度も体調管理も含め、十分に配慮をしていきたい。

【　稲刈り・はぜかけ　】

【　脱穀　】

【　フィールドワーク　】

セカンドスクール

本宿小学校　　9月29日～10月6日（7泊8日）

○日程表

９月２９日（火）		９月３０日（水）		１０月１日（木）		１０月２日（金）	
8:30	学校出発	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
	練馬ＩＣ	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
	上里ＳＡ		片付け・準備		片付け・準備		片付け・準備
	千曲川ＰＡ	9:00	泉台小５年生との	9:00	泉台小と合流	9:00	黒岩山ﾊｲｷﾝｸﾞ
	昼食		交流・農業体験		能生へ出発	11:00	昼食
	豊田飯山ＩＣ		稲刈り	10:30	地引網体験	12:00	下山
13:00	信濃平到着	11:30	昼食〔各民宿〕	12:00	昼食		
	開校式	12:30	泉台小との交流会	13:00	能生漁港見学	13:00	リース作り（雨天の
13:30	民宿着		全体交流		漁港出発		ため）
14:00	もちつき		グループ交流	14:30	上越水族館見学		各民宿にて
	箸づくり	15:00	おやき作り	16:00	泉台小到着		
16:00	自由散策				交流会閉会式	16:00	自由散策
17:30	夕食準備	17:30	夕食準備	17:30	夕食準備	17:30	夕食準備
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴
	学習の記録		学習の記録		学習の記録		学習の記録
	明日の準備		明日の準備		明日の準備		明日の準備
20:00	民宿の方や友達との	20:00	民宿の方や友達との	20:00	民宿の方や友達との	20:00	民宿の方や友達との
	交流		交流		交流		交流
21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

・訪れる信濃平の位置や土地の様子などを学習する。
・課題別体験学習に向け、飯山の自然・産業・暮らしの様子などから調べてみたいことを挙げ、関心のあるテーマを決めてグループ作りを行う。
・課題別学習のグループごとに事前に、本やインターネット、パンフレットなどを用いて調べ学習をし、自分たちが調べたい課題を作る。
・泉台小学校と自己紹介カードの交換をする。また、交流会で行う発表の練習をする。
・お世話になる民宿の方に自己紹介カードを書いて送る。
・生活指導員の方と顔合わせをし、グループごとにセカンドスクールのめあてを話し合う。

長野県飯山市（信濃平地区）

参加人数　男子28名　女子16名
計44名

１０月３日（土）		１０月４日（日）		１０月５日（月）		１０月６日（火）	
6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
	片付け・準備		片付け・準備		片付け・準備		片付け・準備
9:00	駐車場集合	8:20	駐車場集合	9:00	蕎麦打ち体験	8:00	荷物整理
9:30	飯山の町ウォーク	9:00	森の家到着		笹ずし作り（各宿）		大掃除
11:00	昼食		ブナの森ﾊｲｷﾝｸﾞ	11:30	昼食	9:00	柿の収穫
12:00	課題別グループ		伐採見学	12:30	駐車場集合		干し柿作り（各宿）
	体験調査活動		枝打ち体験	13:00	きのこ工場見学	10:45	宿の方へのお礼
15:45	飯山伝統産業会	12:00	昼食	14:00	きのこ工場出発	11:00	駐車場集合
	集合・出発	13:00	木のクラフト作り	15:00	草木染め体験		閉校式
16:15	鈴荘前集合	15:00	森の家出発				信濃平出発
17:30	夕食準備	16:00	自由散策	16:00	自由散策		豊田飯山ＩＣ
18:00	夕食	17:30	夕食準備	17:00	入浴		佐久平ＰＡ（昼食）
19:00	入浴	18:00	夕食		学習の記録		高坂ＳＡ
	学習の記録	19:00	入浴	17:30	夕食準備		練馬 IC
	明日の準備		学習の記録	18:00	夕食	16:00	学校到着
20:00	民宿の方や友達と		明日の準備	19:00	お楽しみ会の準備		帰校式
	の交流・お楽しみ会	20:00	民宿の方や友達との交	20:00	お別れお楽しみ会		解散
	準備		流・お楽しみ会準備				
21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝		
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯		

②　事後の学習内容

・課題別学習のグループごとに自分たちが見学したり、体験したりして調べてきた内容をまとめ、保護者も招いての発表会を行う。
・セカンドスクールでの生活の様子や、信濃平の地域の様子をまとめ、４年生に紹介する。
・８日間の体験や生活を振り返り、作文にまとめる。
・社会科や理科の学習の際に、現地で体験してきたことや学習してきたことを振り返り、学習の参考資料とする。

○特色ある活動内容

＜課題別体験学習＞

昨年度に引き続き、今年度も課題別体験学習を行い、飯山の町や信濃平の自然の中で自分たちの課題について、グループごとに調べたり体験したりして学習を進めることとした。総合的な学習の時間の中で、自分たちの課題をもち、それを実際に現地で調べたり、体験したりしてみることで、より意欲的に問題解決に取り組むことができた。課題作りでは、飯山や信濃平はどんなところかを本やインターネット、パンフレットを使って調べ、その中から興味を持ったテーマを挙げて、６種類のテーマで８つのグループを作った。また、それぞれの講師は民宿のお父さん・お母さんや観光協会の方にお願いした。

１、飯山の自然（2グループ）

信濃平周辺で、植物の観察やわき水の由来などを調べるフィールドワークを行った。飯山の四季の変化、自然の様子、地形など自然環境や、自然とともに生きてきた飯山の人々のくらしについて話してもらい、豊かな自然について改めて学ぶことができた。

２、郷土料理

当日は「筍汁」の作り方を教えてもらい、実際に調理体験もさせていただいた。食料を上手に保管して、長期間食べられるような工夫が郷土料理にはあることなどを子どもたちは学ぶことができた。

３、飯山仏壇

実際に仏壇工場に行き、仏壇を組み立てるところを見学させていただいた。たくさんの部品から作られていることがわかった。仏壇作りに携わる人の工夫や努力を実際に見て、聞くことができ、子どもたちには大変貴重な体験となった。

４、飯山の米・農産物

信濃平の田んぼを見学し、米作りをしている方から米作りの話を聞いた。田んぼがどんな作りになっているのか、わき水を利用することでおいしい米作りができることなど、実際に見学しながら教えてもらった。また、農作業に用いる田植機やコンバインなどの機具も見せてもらい、米作りに携わる人達の仕事の様子や工夫についても学ぶことができた。

５、内山和紙

伝統産業会館にある和紙作りの体験工房で実際に紙すき体験をさせてもらった。和紙ができあがるまでの工程を調べたり、和紙がさまざまに活用されたりしている様子を調べることができた。

６、雪国の工夫

市役所や飯山駅を訪れ、除雪に使われる車両や大雪に対しての備えについて見学し、冬の飯山の暮らしと生活する人々の様子について学ぶことができた。

＜自然体験学習＞

１、黒岩山のハイキング

民宿の近くにある黒岩山のハイキングを行った。民宿のお父さんが講師となって、信濃平の地形の特色や、ブナの木やギフチョウなどの飯山の動植物や桂池についての話などをしてくださった。

＜学習体験活動＞

１、農業体験（稲刈り・野菜の収穫など）

稲刈り体験では、民宿のお父さん方に稲の刈り方と、刈り取った稲の束ね方を教えていただき、作業を進めていった。土がぬかるんでいて、歩くことさえ困難な場所もあったが、全員で協力しながら田んぼ１枚の稲をすべて刈り取ることができた。自分たちが普段食べている米ができるまでの作業の一端を体験することができ、米の大切さを実感することができた。

２、林業体験

４グループに分かれてインストラクターの方とともに活動した。人が手を入れることにより、森林の健康を保つことができることなどを、見学や体験を通じて学ぶことができた。枝打ち体験では、実際にのこぎりを使って枝を切り落とす作業を行った。子どもたちが自然や環境について考えるよい機会となった。また、クラフト作りでは、午前中に切り落とした枝を使ってパチンコとキーホルダー作りを行った。特に木の枝を使ったパチンコ作りでは、様々な大きさのパチンコを作ってアクリル絵の具でペイントし、杉の実を拾って飛ばして遊んだ。その中で自然の中にあるものを活用して工夫する楽しさを味わうことができた。

３、水産業体験

新潟県能生地区の藤崎海岸で地引き網漁を体験した。キス、フグ、イカ、ヒラメなどの魚が20匹ほど網にかかり、地引き網漁がどうやって行われているかということを体験できた。次の漁港見学では、魚の水あげの様子を間近で見ることができ、同時に働く人々の様子を見学することができた。これらの体験は社会科の水産業の学習の中で生かすことができた。

なお、地引き網でとれた魚は少しずつだが、各宿に分けて夕食の一品として並んだ。

＜生活体験活動＞

１、郷土料理作り（笹ずし・そば打ち）

各民宿で、民宿のお父さんお母さんに教わりながらそば打ちと笹ずし作りに取り組んだ。そば粉をこねたり、薄く延ばしたり、打ったそばを細く切ったりと初めての体験に、どの子も生き生きとしながら取り組んでいた。

また、郷土料理である笹ずし作りでは、郷土料理について教えてもらいながら作業を進めている班もあった。自分たちで作った郷土料理にどの子も大満足で、普段以上の食欲を見せてそばや笹ずしをほおばっていた。

＜泉台小学校との交流＞

飯山市立泉台小学校の５年生と２日間の交流を行った。１日目は、午前中に稲刈りをし、その後、各民宿で一緒に昼食をとった。午後からは交流会として、学習発表、歌、グループ交流、ドッジボール大会を行った。最初は久しぶりの再会でぎこちなかった子どもたちも、だんだんと打ちとけて、話も弾むようになり一緒に活動に取り組んだ。また、活動後、民宿まで遊びに来てくれる子どもたちもいて、より交流が深まっていった。

２日目は、バスで一緒に新潟県能生方面へ行き地引網体験、漁港見学、上越水族館見学を行った。バスの中では、近くの席の子どもたち同士で会話もはずみ楽しい交流となった。

○児童の感想

・信濃平は自然がたくさんあって、いつきても「いいところだなあ」と思いました。初めて会う宿のお父さん、お母さんはやさしかったです。
・郷土料理のおやきは、いつも食べているおかしより、美味しかった。
・はし作りでは、竹のぼうをナイフでけずるのがむずかしかったです。でも、できたおはしで食べたごはんは、おいしかったです。
・地引網では、引くのが重くて苦戦しました。でも、網の中は、フグやヒラメ、白キスなどけっこうすごい魚がいましたが、ぼくが一番おどろいたのは、ものすごい大きいエチゼンクラゲです。さわってみるとすごくかたかったけど、プニュプニュ感もありました。
・そば打ち体験では、そばは最初はこなだったのに、最後はかたまりになっていてびっくりしました。あと、そばを食べた感想は、かたくて太かったけどおいしかったです。
・夜に星を見に行きました。東京でみるより、ずっときれいでした。
・上越水族館では、見たことのない魚がいたり、ペンギンがいたりしておもしろかったです。
・上越水族館では、えづけショーを見ました。エサを持っているダイバーのお姉さんが出てくると、それに魚がついてくるのがすごいなと思いました。
・自由散策では、鬼ごっこや、動植物の観察がおもしろかった。飯山で鬼ごっこをすると、危険が無いから、精一杯走ることができた。
・泉台小とのドッジボールでは、１戦目に勝って、２戦目引き分けで３戦目が負けで、引き分けだったけど楽しかった。
・草木染めは、ビー玉を 20 個近く入れたので、変かなぁと思ったけど、意外ときれいでした。
・今日はいよいよ帰る日です。ぼくは少し家に帰りたいと思っていたけど、帰りたくない気持ちもありました。この８日間はものすごく早く感じました。
・お別れのとき、今まで言いたかった「ありがとう」の言葉を全部つめて、心をこめてお礼を言いました。昼食も宿の方の作ってくださった食事だと感じながらしっかりと味わいました。この７泊８日間、みんなで協力して、笑って、指導員の先生や宿のお父さん、お母さんが支えてくれて、本当に充実した毎日でした。

○保護者の感想

・セカンドスクールで行った飯山にはカエルがたくさんいてとてもかわいかったことや、一緒の部屋で過ごした友達がとても面白かったことなど、いろいろな思い出を話してくれました。

・とてもやさしい子なのですが、いい子過ぎて少し心配していました。セカンドスクールの影響かどうか分かりませんが、帰ってきて少したった頃、親に対して不満があるときには敵意まるだしの態度をとることがありました。自分の感情を態度に表すようになり、その成長を嬉しく思っています。
・家ではこれまで食器の片づけをしたことがなかったのに、セカンドスクールから帰ってきたら自分で片付けをするようになりました。

○総合的な学習の時間との関連について

課題別体験学習にむけて、課題づくりのために飯山や信濃平の自然・文化・産業について調べた。また、課題ごとにグループを作り、事前に下調べを行った。現地では、それぞれのグループごとに課題別体験学習を行った。さらに、それぞれのグループで調べたことを学習発表会の形で発表、交流し合った。

３学期には４年生に「セカンドスクールを伝えよう」というテーマでセカンドスクールでの生活の様子や課題別学習の取り組みについて紹介を行う予定である。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

地元の泉台小学校の５年生との交流では昨年度からの繋がりもあり、子どもたち同士の関わりが深められた。子どもたちが信濃平に愛着をもち、７泊８日を過ごすことができた。

○次年度に向けての反省・課題

・昨年度に引き続き、課題別体験学習に取り組んだ。子どもたちの学習テーマに沿った講師を開拓し、現地での活動内容の充実を図りたい。そのために現地との連携をより密にし、準備を進める必要がある。
・１日のスケジュールに余裕を持たせて、日程を組んでいる。その中で、子どもたちは信濃平の自然の中で、蛙やバッタを捕まえたり、笹舟流しをしたりと自分たちで遊びを見つけていった。体調を崩す子どもも少なく、今後も余裕のある日程を組んでいく。
・信濃平地域が高齢化で民宿の閉鎖が相次いでいる。今後の実施に支障をきたさないように、早めに対策をとっておく必要がある。

【泉台小と一緒に稲刈り】

【泉台小と一緒に地引網体験】

千川小学校　　9月26日～10月3日（7泊8日）

○日程表

９月２６日（土）		９月２７日（日）		９月２８日（月）		９月２９日（火）	
		6：00	起床、検温、清掃	6：00	起床、検温、清掃		
		7：00	朝食	7：00	朝食準備（野外炊飯郷土料理・芋煮）		
8:10	三鷹駅集合 出発式	8：00	玄関前集合				
		10：00	月山８合目着	11：30	野外炊飯片付け		
8:30	三鷹駅出発						
			弥陀ヶ原オリエンテーリング	12：30	宿舎発		１日、農家での生活体験。 稲刈り・枝豆の選別と袋詰め、里芋の収穫等、各農家の作業を体験する。
10:12	東京駅出発	11：00	昼食	13：00	農業支援センター（農業についての学習・宿泊先農家との対面式） 各農家毎に出発		
		12：20	月山８合目発				
12:34	新潟駅出発	13：10	手向オリエンテーリング				
14:24	鶴岡駅着						
				15：00	16:00 以降は、各農家の計画に従っての生活が始まる。		
15:00	金峰少年自然の家 開校式	16：30	宿舎着				
17：00	夕食	17：10	夕食				
18：00	ナイトハイク	18：00	学習整理		（農家民泊）		
20：00	入浴	20：00	入浴				
20：45	健康観察	20：45	健康観察				
21:00	消灯	21：00	消灯				
							（農家民泊）

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・１学期…総合的な学習の時間（千川タイム）「セカンドスクールに行こう」と社会科「自然のめぐみをいかして」の双方の単元で、農業についての学習を進めてきた。特に、「セカンドスクールに行こう」では、本校の「わくわく広場」の水田において、田おこしから始まる稲作の体験や米料理についての調べ学習を進めて、セカンドスクールでの学習に生かそうとした。

・２学期…民泊でお世話になる農家へ挨拶状を書いたり、５泊する宿泊施設での生活のイメージを造りあげようとしたりした。また、セカンドスクールにおける係を決め、進んで仕事に取り組むことができるように意識付けをした。同時に、鶴岡市で学びたいテーマを決め、グループを組織した。そして、現地で学習するポイントを決め、まとめの方法を考えた。

山形県鶴岡市	参加人数　男子28名　女子27名 計55名

９月３０日（水）		１０月１日（木）		１０月２日（金）		１０月３日（土）	
6：00	起床、検温、清掃	6：00	起床、検温、清掃	6：00	起床、検温、清掃	6：30	起床、検温、清掃
7：00	朝食	7：15	朝食	7：15	朝食	7：30	朝食
7：30 8：30	各農家出発 農業支援センター（お別れ式）	8：10	集合・出発	8：10	集合・出発	8：30	大掃除・出発準備
		9：30	課題別学習	9：30	課題別学習	9：30	閉校式
9：00	日向川へ出発					10：00	宿舎出発
10:00	日向川で、鮭のつかみ取り	12：00	昼食	12：00	昼食	10：52	鶴岡駅出発
		13：00	課題別学習	13：00	課題別学習	13：10	新潟駅出発
12:00	鮭の加工場着・施設の見学						
		16：00	宿舎着	16：00	宿舎着	15：20	東京駅着
14:00	釜磯海岸着・散策						
		16：30	課題別学習のまとめ	16:30	課題別学習のまとめ	16：14	三鷹駅着
17:00	宿舎着					16：20	解散式
17:30	夕食	17：30	夕食	17：30	夕食		
19:00	入浴	19：00	入浴	19：00	入浴		
20:00	学習整理・しおり記入	20：00	学級レクリエーション	20：00	荷物整理		
21:00	健康観察・消灯	21：00	健康観察・消灯	21：00	健康観察・消灯		

②　事後の学習内容

・お礼の手紙を清書して、全員分をまとめ、お世話になった方々へ郵送した。分担を決めて書いた。

・千川タイムでは、事前に決めておいた自分のテーマと項目に沿って、学習したことをまとめた。まとめ方は一項目につき、一枚の用紙に図や写真と文章を入れ、なるべく簡潔に、且つ行ったことのない人にもわかるようにまとめるように指導した。まとめた作品は昇降口とオープンスペースに掲示した。

・また、８日間過ごして思ったことや感じたことなどを俳句や詩で表現し、全員の作品を印刷して配布した。学年度末には文集の形で発行する予定である。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

１、ナイトハイク（山形県金峰少年自然の家）

１日目の夜、金峰少年自然の家の周りでグループごとにナイトハイクを行った。夜の森の雰囲気を味わうために、なるべく声をたてずに、静かに歩くように指導した。途中、鶴岡市を一望できるコースを選んだので、暗い森と町の灯りとの対比を楽しむことができた。

２、月山オリエンテーリング

月山８合目の弥陀ヶ原を、グループごとに一周した。班ごとに時間差をつけてチェックポイントを通過する「追跡ハイク」の形をとった。地図とは逆にまわってしまったグループもあったが、天気が大変良く、珍しい高山植物や湿地などの景色を楽しみながら歩くことができた。また、道ゆく人たちと気持ちよくあいさつすることができた。

＜学習体験活動＞

１、農業体験（農家での体験・鶴岡市の農業学習）

米所庄内平野にある鶴岡市では、稲作はもちろんのこと、さまざまな農業体験や流通など、農業に関する学習を行うことができた。社会科「伊藤さんの米作り」の単元で取り上げられている場所も同じ庄内平野なので、学習したことを生かしたりまとめたりする活動が、やりやすかったものと考える。

・農家での体験…民泊する農家毎に、そこで行われている作業を体験した。米の収穫、木の実を使った工作、生み立て卵を使った料理、枝豆の計量と出荷など多岐にわたった活動を体験していた。各児童の個性に合った活動をさせてもらい、とても生き生きとした表情で過ごしていたのが印象的であった。

・鶴岡市の農業学習…農家民泊の前に、全体で鶴岡市及び庄内地方の農業について学習した。まず、鶴岡市の農業全体の特色について説明を受けたあと、カントリーエレベーターのある施設に連れて行っていただき、収穫された米が保存される仕組みを学んだ。次に、産地直売センターで特産品を見て、乾燥させた「だだちゃ豆」の試食をさせてもらった。その後、農家で収穫した作物を直売センターに売りに行った児童もいたので、学習活動としてつながりがあり、印象的だったようだ。

２、「まち」「うみ」「やま」課題別学習

鶴岡の産業・伝統文化・歴史などについて体験を通して理解を深めるために、「まち」「うみ」「やま」の課題の中から２つを選択して、学習を進めた。

・「まち」…絵ろうそく作り、御殿まり作り、鶴岡公園オリエンテーリングを行った。鶴岡市中心部に出かけ、午前中は伝統工芸品である

【課題別学習　絵ろうそく作り】

絵ろうそくと御殿まり作りに取り組んだ。昼食を鶴岡公園で取り、午後は公園の石碑に関する問題をグループごとに解いていきながら、町の歴史や文化を学んだ。課題を解決する形をとったことで、関心をもって学習できたようだった。

・「うみ」…つりと加茂水族館を見学した。鶴岡市由良に出かけ、海浜釣り堀においてつりを行った。釣り堀の中には日本海沿岸に生息する魚がいて、全員がつり上げることができ、満足げだった。地元の食堂のご厚意で、つり上げた魚をお昼ご飯のおかずに出していただき、皆、おいしそうにほおばっていた。加茂水族館では、クラゲの生息に関するレクチャーを受けた。

・「やま」…羽黒山において山伏修行を体験した。いでは文化記念館において、羽黒山の歴史、山伏修行の目的などの話を聞いた後、実際に羽黒山抖そう・壇張り・滝打ち・火渡りなどの修行を体験した。壇張りとは一汁一菜の食事のことで、少しの食事で荒行をする山伏のたいへんさや食事のありがたさが児童の印象に残ったようだった。大変な修行の一端を垣間見ただけであるが、とても疲れて帰ってきていた。

３、鮭つかみ体験

遊佐町の日向川に出かけ、遡上する鮭が入り込んだ檻の中から直接採る活動をした。檻の中ですばやく逃げる鮭に驚いてなかなかつかむことができなかったが、どの児童もつかもうと一生懸命だった。つかみ取り体験の後に、桝川の「さけます増殖資源加工センター」で、鮭の加工食品についての学習と試食をした。産卵について（命を伝える）の学習や鮭の命をいただく体験を通して、命の大切さを実感した児童が多く見られた。

＜生活体験活動＞

１、山形名物・芋煮をつくろう

金峰少年自然の家の敷地内にあるキャンプ場において、行動班毎に芋煮作りを行った。まだ、家庭科の調理実習の単元に入っていなかったこともあり、野菜や肉を切るのに苦労していたが、班毎に、食材の準備をする人と竈の用意をする人など分担し、活動していた。自分たちで作った芋煮なので、「おいしい」を連発しながら食べる児童が多数いた。食器類の後片づけの点検が大変厳しく、「次に使う人のことを考える。」という心構えの大切さも学ぶことができた。

＜地域の人々とのふれあい＞

１、農家民泊

【農家民泊】

児童は３～５人ずつ 16 のグループに分かれて、２泊３日の予定で鶴岡市内の農家に民泊した。２日目は、丸１日、農家での生活だった。各農家での作業等をゆっくりと行うことができた。様々な作物の収穫、コンバインやトラクターの運転、直販所への出荷の手伝いをはじめとした農作業の他、家庭内の仕事も手伝っていた。農家の方々は、家族の一員のように、優しく時には厳しく子どもたちに接してくださった。担任が訪ねた時には、自分たちの生活の様子を我先に伝えようとしていて、命を育てることや、育てたものを消費者

に届けるという過程の厳しさを学びながらも、ゆっくり時間が流れる生活の中に身を置き、生き生きとした表情が印象的であった。

○児童の感想

・農家の方に里芋の抜き方や、イナゴとカエルの取り方を教えてもらいました。そのあとで食べた食事がとてもおいしくて、食事をしながら教えてもらった山形の方言をさっそく友達と使ったら、農家の方がとても喜んでくださって、うれしかったです。
・大量の枝豆をとるのがとても大変で、たくさん汗をかきました。でも、収穫した枝豆とスパゲッティの食事がとてもおいしくて、ほっぺたが落ちそうでした。渋柿はアルコールに１週間つけておくと甘みがでておいしくなることを初めて知りました。農家の方とお別れするのがさびしかったです。
・滝に打たれた時、水の冷たさに体が凍りそうでした。羽黒山の石段を登るのはとても大変で、山伏の修行が大変なのに驚きました。山伏は自然とともに生きようとしているのだと思いました。
・絵ろうそくの模様をつけるのは思ったよりも簡単でした。でも、御殿まりを縫う作業は、向きがわからなくなってしまってとても大変でした。でも、桜の模様が浮かび上がってきたときには、やってよかったと思いました。

○総合的な学習の時間との関連について

総合的な学習の時間（千川タイム）で高学年の児童が身に付ける力として、本校では以下の点に重点をおいている。
・自分なりの視点で課題を見付け追究していく。その中で、課題を多面的に見たり、別の課題に発展させたりして追究する。
・伝えたい相手を意識し、自分が学んだことを、より分かりやすく自分の言葉で表現し、まとめる。「セカンドスクールに行こう」の学習では、まず、自分が重点的に学びたいテーマを決め、そのテーマに沿って調べたり、現地で体験したり、教えてもらったりしたことをもとに図や写真、文章などで説明していくことでまとめとする。
・予め課題を明確にしておくことで、現地で意識して観察したり、質問をしたりする児童が多かった。

今後は、セカンドスクール中、様々な場で人と出会う中での、挨拶や礼儀作法といった基本的な行動のしかた、自然や命と人々の生活との関わりについて学んだことを、総合的な学習の時間だけでなく、他の教科・領域や学校生活全般に生かしていくよう指導したい。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

昨年度のプレセカンドスクールでは、２泊３日の宿泊を経験した。民宿に分宿するという形だったが、この形式は「農家民泊」の中で生かされた。また、課題に取り組み、まとめていく学習も、プレセカンドスクールでの経験が生かされ、グループで協力し、自分たちで学習を進めていくことができた。

また、一人一役で責任をもって係の仕事を行う形は、プレセカンドスクールで経験していたので、その体験が随所に生かされた。「自分たちの生活を自分たちで組み立てていく」という意識が育ってきていると思う。

○次年度に向けての反省・課題

・昨年度からの変更点は次の３点である。ナイトハイクや学年・学級レクリエーションを取り入れ、夜の活動を充実させたこと、月山と手向宿坊街の散策をグループごとのオリエンテーリングの形にしたこと、課題別の学習の町コースの活動に、同じく鶴岡公園内のグループごとのオリエンテーリングにしたことである。いずれも、指示を待つだけではなく、児童が自ら考え、企画をしたり、課題を解決したりすることで、児童の学習に主体的に向かおうとする姿勢を育てるために有効であった。

・鶴岡市までは、三鷹から合計５時間半ほどかかってしまう。また、大きな荷物をかかえての電車による移動は、児童にとって負担になるだけではなく、他の乗客にも迷惑となってしまう可能性がある。何年かかけて、別の体験場所を開拓していく必要がある。

・鮭つかみは、唯一、鶴岡市内の活動ではない。移動に時間がかかるのと、農家民泊における活動内容がとても濃く、児童の印象にも残っていたので、次年度は、鮭つかみを行わず、農家民泊に出かけるようにしたい。また、全体の日数を１日減らす関係で、課題別学習を１日減らし、３つのコースから１つを選ぶ形にしたい。

・新型インフルエンザへの対応として、全員がマスクを着用するようにした。また、学校から消毒液を持っていき、宿舎の洗面所などに置いて、手指の消毒をするようにした。その結果、全員が感染することなく、元気に過ごすことができた。

井之頭小学校　　9月30日～10月7日（7泊8日）

○日程表

９月３０日（水）		１０月１日（木）		１０月２日（金）		１０月３日（土）	
7：30	学校集合	10：00	稲刈り	9：30	茶屋池周遊	9：00	宿ごと体験
7：40	出発式		はぜかけ		ブナの森ハイキング		・陶芸
8：00	バス乗車、出発						・うちわ作り
							・巣箱作り
		13：30	脱穀	14：30	課題別学習②		・野草パン
12：00	戸狩到着、開校式		千歯こき		・米、野菜について		・おやき作り
			足踏脱穀機		・野草について		
13：00	昼食　部屋割り		コンバイン		・飯山の歴史	12：00	餅つき体験
		15：00	焚き火体験		・伝統産業について	13：00	わらぞうり作り
14：00	課題別学習①				・川の生き物、虫		
		19：00	暗闇体験		・戸狩の四季	16：00	雪国のくらし学習
15：30	箸作り			19：00	手紙書き	18：00	バーベキュー

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

・社会科の授業で「気候を生かした地域の暮らし」の学習において、飯山市戸狩地区の事や雪国の暮らしにふれ、現地に行った折の学習への意識付けを図った。また、長野県の位置や気候についても調べた。

・１学期の総合的な学習の時間に、社会科と関連させ、稲作についての学習を行った。
社会科で田植えまでの過程を学習した後、学校の水田で田植えを行った。植えた苗は戸狩から送っていただいたもので、セカンドスクールへの動機付けともなった。

・現地での課題別学習に向け課題を選択させ、インターネットや書籍での調べ学習を行った。
課題は、戸狩の宿の方の専門分野を伺ったうえで設定した。内容は、①米、野菜作りについて②川の生物、虫、小動物について③飯山の歴史について④戸狩の四季について⑤伝統産業、特産物について⑥戸狩の野草、植物についての６つである。

・交流会で感謝の気持ちをしっかり伝えられるよう、事前に計画を立てさせたり、準備をさせたりした。

長野県飯山市	参加人数　男子25名　女子17名 計42名

１０月４日（日）		１０月５日（月）		１０月６日（火）		１０月７日（水）	
9：00	カントリー エレベーター見学	9：00	西大滝ダム見学	9：00	宿ごと勤労体験 ・大掃除	8：00	掃除、荷物整理
10：30	和紙すき体験	10：30	きのこ工場見学		・野菜の収穫 ・稲刈り	9：30 10：00	閉校式 バス乗車　出発
14：00	瑞穂の棚田見学 棚田のスケッチ	13：30 15：00 19：00	飯山についての学習 宿ごと体験 郷土食の笹寿司作り 交流会準備	13：00 15：00 18：00	焼き板体験 交流会準備 交流会	15：00 15：30	学校着 解散

②　事後の学習内容

・セカンドスクールでの体験を作文にまとめた。

・課題別学習班ごとに、事前に調べてきたことや現地で学んだことを模造紙にまとめ、互いに発表した。加えて来年度にセカンドスクールへ行く４年生にも発表した。

・戸狩で稲刈りした体験をもとに、学校の田でも稲刈りをした。はぜかけの後、手作業で脱穀をし、家庭科の授業でもみすりを行った。田植えから、もみすりまでの一連の作業を体験することで、米作りの過程やその大変さをより理解することができた。

・お世話になった宿の方々に手紙を書き、感謝の気持ちを伝えた。後日来校していただき、久しぶりの交流がもてた。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

１、茶屋池周遊ハイキング

宿のお父さん方とともに、茶屋池周辺に広がるブナの森のハイキングを行った。ハイキングの中では、ブナに触れたり、木の実を拾ったりしながら、豊富な水を蓄えるブナの特色や、自然環境に果たす役割などについて肌で触れて直接的に学ぶことができた。大型のナメクジなど

森に生息している生物、きのこや植物などについても、目の前で見たり触れたりしながら学習することができた。随時お父さん方が説明を加えてくださり、疑問がその場で解決されていった。整えられた道ではなく、自然のままの山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、自然と生物との関わりを実感することができた。

2、暗闇体験

東京では体験できない、真っ暗な道や田んぼのあぜ道を歩く体験を行った。武蔵野の夜の暗さとは異なる圧倒されるような暗闇を体験することで、その深さや怖さを知ったり、逆に星空や月の美しさに深く感動したりすることができた。大自然を肌で体感し、畏敬の念を育む貴重な体験となった。高揚感を子供たち同士で共有し合えたため、帰宅後の宿での会話が一層充実したようである。

3、棚田のスケッチ

棚田を見学し、自然の地形を生かした先人達の知恵を目の当たりにしたことで、自然との共生について考える貴重な機会となった。さらに、棚田や周辺の自然をスケッチすることで、里山の景観の美しさに思いを馳せ、心豊かな感性を育む素晴らしい体験となった。

＜学習体験活動＞

1、農業体験（稲刈り・はぜかけ・脱穀）

作業の前に働くことの意義や農家の苦労などを話していただき、稲刈りへの関心や意欲を高めることができた。民宿の方々の指導で、稲刈り・はぜかけ・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や体の動かし方を習い、勢いよく手前に引くように刈っていった。ただ体験するだけではなく仕事として真剣に取り組む姿が見られた。

はぜかけでは、稲穂の束ね方から習った。少しずつの分量でまとめて干すことで、湿気ることがなく、カビが生えないという先人の知恵を学んだ。

脱穀では、千歯扱・足踏脱穀機・コンバインの３種類の農具を体験することが出来た。千歯扱では、籾をより分けるために考えられた江戸時代の人々の知恵の深さに感心している児童が多かった。手前に引くと一気に籾が落ちる迫力にも感動していた。足踏脱穀機はさらに多くの量を手早く脱穀でき、農機具の発達や仕組みの工夫に驚く児童もいた。最後にコンバインでの脱穀の様子を目の当たりにし、手作業の大変さを実感できた学習であった。一方では、手作業で汗をかく素晴らしさや気持ちよさを感じる児童も大勢いた。

この農業体験は、今回のセカンドスクールの中心をなすものであり、他の活動との関連を図っている。主なものは、カントリーエレベーターの見学とわらぞうり作りである。カントリーエレベーターの見学を実施することで、稲刈り・はぜかけ・脱穀・もみすり・精米といった出荷までの一連の流れを捉えやすくした。わらぞうり作りでは、籾を落とされた穂を再利用し生活用品に生まれ変わらせるという、先人の知恵を体感することが出来た。また、帰宅後の国語の学習「わらぐつの中の神様」への動機付けや深い理解へとつながった。

主食である米を作るまでの手間の多さと、それによって生まれる副産物について、ともに学ぶことが出来た。

＜生活体験活動＞

１、郷土料理づくり

宿の方の指導で、「笹寿司」作りを行った。笹寿司の起源や工夫された食材、食べ方などについての話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味をもったようであった。また、乗せる具材を調理し作るところから始めたことで、達成感もあったのか大切そうに食べている様子がみられた。

２、宿ごと体験

宿ごとの体験では、巣箱作り、おやき作り、陶芸、うちわ作り、野草パン作りが行われた。巣箱作りでは、のこぎりやトンカチを使って作業を進めていた。おやき作りでは、生地を練るところから行っていた。陶芸では粘土を思い思いの形に練り上げたり、型抜きを活用したりして楽しく作品を作っていた。うちわ作りでは、紙すき体験で学んだ伝統和紙の内山紙を使用して、学習と自分の作品とのつながりを味わうことができた。バウムクーヘンは、炭火の上で竹筒を回し、生地をぬりながら作っていった。その他にもそば粉をこねるところから始め、最終的には自分で打ったそばを食べた宿もあった。どの宿も武蔵野では体験したことが無いことへの取り組みばかりで、意欲をもってできただけでなく、自分で作り上げたという満足感を味わうことができた。

また、それぞれの宿ごとに焼き板工作も行った。焼き板工作では、焼いた板についた煤をきれいにはらうことで板に新たな風合いを出し、思い思いにデザインを付けていった。板をのこぎりで切ったり、たき火を起こして焼いたりと、難しい作業にも関わらず自分で行っているのだという達成感を子供たち全員が感じていた。

＜宿の方とのふれあい＞

１、課題別学習

課題別学習は、以下の６種類からの希望制で行った。

・米、野菜作りについて・・・戸狩でとれる米についての学習や、飯山で栽培される野菜、きのこの栽培などについて学習した。

・野菜作りについて・・・・・戸狩で主に生産される野菜についての学習や、畑での収穫などを行った。

・飯山の歴史について・・・・飯山城址に行ったり、がんぎの続く町並みを見学したりすることで飯山の歴史を学んだ。

・伝統工芸、特産について・・・内山和紙や仏壇、わらぞうりや飯山の名物を調べた。

・戸狩の四季について・・・雪国の暮らしや気候を活かした行事や取り組みについて学習した。

・川の生き物・虫　小動物について　・・・周辺を流れる川に行き、カニやカエルなどの生き物について、実際に捕まえたり触ったりして学習した。

・戸狩の野草や植物について・・・周辺の散策をし、よく見られる花や植物について学習した。

２、地域についての学習（雪国の暮らし・飯山について）

「雪国の暮らしについて」の学習や「飯山ついて」の学習の講師を宿の方にお願いしたことで、実際に取り組まれている暮らしの工夫や生活の苦労を直接学習することができた。また、実物を見せていただき、学習が具体的に深く進められていった。

○児童の感想

・セカンドスクールで楽しみにしていたことは茶屋池のハイキングです。ハイキングは空気が気持ちよくてうっとりしてしまいました。茶屋池は寒かったけれどとても綺麗でした。
・課題別学習では、お父さんに飯山城に連れて行ってもらいました。そこでは、千曲川が飯山城のお堀になっていることが分かりました。寺や寺社も多かったです。
・セカンドスクールで一番心に残っているのは暗闇体験です。東京ではできない山の中の暗い道を歩き続けて、最初に見たのは飯山の綺麗な夜景でした。その後には、月の横に流れ星が見えました。みんな驚いて呆然としていました。
・私は稲刈りがとても大変なことがよく分かりました。今は色々な機械があるけれど、昔はそんなものは無かったから、自分たちの手でやっていたことの大変さがよく分かりました。
・私は蛙が嫌いでしたが、だんだん慣れてきて触れるようになりました。セカンドスクールでできなかったことができるようになれたのは、自分でもびっくりしました。
・戸狩に着いて思ったことが２つあります。１つ目は空気の違い、２つ目は自然の多さです。両方とも東京とは違い、空気はとてもおいしいし、自然はとても豊かでした。

○保護者の感想

・戻ってきてから、友だちが自宅に遊びに来た時、全員分の靴が自然に揃えられていたので驚きました。
・食事の後には、当たり前のように食器を下げるようになりました。
・親から離れて、同年代の子供たちと過ごせたことはとてもありがたい経験です。
・普段は学校のことをあまり話さない子ですがセカンド後はよく話をするようになりました。
・戸狩のお父さんお母さんに信頼を寄せて、また戸狩に行きたいと言っています。
・プレセカンドの経験を活かしていました。友達との付き合い方、責任感、友達を気遣う姿勢に成長が見られました。

○総合的な学習の時間との関連について

総合的な学習の時間では、事前に課題別学習の下調べを行い、事後には学んだことをまとめ、発表会を行った。現地ではそれに関連させ、課題別学習をテーマごとに行い、事前に調べたことの確認と新たに知り得たことの学習や経験を実践した。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・長距離のバス移動ではあったが、体調を崩す児童も見られずに現地まで到着できた。
・１週間という長い期間の実施であったが、ホームシックが心配された児童もプレセカンドでの経験を活かして、楽しんで活動に取り組むことができた。
・多くは初めての体験活動が主だったが、順応が早く、主体的に取り組む姿が見られた。
・プレセカンドでの宿泊経験は、保護者の方々にも子供たちにも精神的な安心感をもたらしていた。荷物の梱包も慣れていた。

○次年度に向けての反省・課題

・昨年度の反省を受けて、集合時刻を９時にした。そのため朝の活動がゆとりをもって行うことができた。

・４日目では、天候の影響で宿ごと体験を午前に回し、わらぞうり作りを午後にした。その結果、午前中はゆったりと宿の方々と交流をもつことができ、昼食の餅つきの準備にも余裕がもてた。午後のわらぞうり作りも昼食後のため夕刻までゆったりと取り組むことができた。来年度もこの順序としたいと考えている。

・稲刈りの後に籾殻が衣服に付着しており「チクチクする」と痛みを訴える児童もみられた。稲刈り後はすぐに入浴をさせたい。

・カントリーエレベーター見学は細かい粉塵が舞っているので、マスクを着用させた方がよいと考えた。また稲刈りの最盛期でもあるので、刈り取られた稲が運び込まれてしまう午後では見学ができない。今年度通り午前中の見学がよいと思う。

・７日目の宿ごと体験（勤労体験）は、宿の方も子供たちも参加し朝からその宿ごとにゆったりと取り組みを始められて大変充実した関わりがもてた。宿の方と子供たちが一緒に会話をしながら作業に当たる姿がとても印象的であった。その後の焼き板や宿ごとの取り組みにも時間的な融通が生まれ、最終日前に相応しい豊かな時間の流れであった。

【　ブナ林での学習　】

【　宿ごと勤労体験　】

【　飯山についての学習　】

セカンドスクール

関前南小学校　　10月1日～10月9日（8泊9日）

○日程表

１０月１日（木）		１０月２日（金）		１０月３日（土）		１０月４日（日）		１０月５日（月）	
				6:00	起床健康ﾁｪｯｸ	6:00	起床健康ﾁｪｯｸ	6:00	起床健康ﾁｪｯｸ
		6:30	起床健康ﾁｪｯｸ	6:30	清掃	6:30	清掃	6:30	清掃 整理整頓
		7:00	清掃 朝食	7:30	朝食	7:00	朝食 出発	7:00	朝食 出発
8:30	三鷹駅出発式	8:50	集合 出発	8:50	集合 出発	8:50	宿舎着	8:30	宿舎着
9:00	三鷹駅発	9:30	湧き水見学	9:00	自然文化学校	9:00	自然文化学校	9:00	そば打ち体験
10:12	東京駅発	10:00	養豚業の後藤さんの話		○魚と遊ぼう ○木と草花と遊ぼう		○魚と遊ぼう ○木と草花と遊ぼう		
		12:00	昼食		○鳥海山の自然 ○わくわく農業		○鳥海山の自然 ○わくわく農業	12:00	昼食
12:35	新潟駅発	13:00	米作り農家の伊藤さんの話					13:30	植樹活動
15:01	遊佐駅着	14:00	農業機械見学						
15:30	開校式	16:00	宿舎着	15:30	宿舎着	15:30	宿舎着	16:00	宿舎着
		16:30	学習のまとめ	16:00	旅館着 学習のまとめ	16:00	旅館着 学習のまとめ	16:30	学習のまとめ
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	学習のまとめ	19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き	19:00	手紙書き
20:30	健康ﾁｪｯｸ	20:30	健康ﾁｪｯｸ	20:30	健康ﾁｪｯｸ	20:30	健康ﾁｪｯｸ	20:30	健康ﾁｪｯｸ
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・４年生２学期・・・20 年度の全校集会において、５年生（現６年生）のセカンドスクールに関する集会発表を聞き、次年度の活動に対する関心を高めた。

・５年生１学期・・・実施地の山形県遊佐町や庄内地方について調べ学習を行なった。現地で長年講師としてお世話になっている方に来校していただき遊佐の自然について話をしていただいた。

・５年生２学期・・・課題追究活動のグループ作り及び計画、活動準備を行った。現地でお世話になる講師の方々に依頼の手紙を書いた。

山形県飽海郡遊佐町・酒田市

参加人数 男子31名 女子28名 計59名

１０月６日（火）		１０月７日（水）		１０月８日（木）		１０月９日（金）	
						6:00	起床健康ﾁｪｯｸ
6:30	起床健康ﾁｪｯｸ	6:30	起床健康ﾁｪｯｸ	6:30	起床健康ﾁｪｯｸ	6:30	大掃除 荷造り
7:00	清掃 朝食	7:30	朝食 出発	7:00	清掃 朝食	7:30	朝食
8:50	集合 出発	8:15	宿舎着 出発	8:50	集合 出発	8:30	閉校式
10:30	獅子ヶ鼻湿原	8:50	集合 出発	9:30	課題追求活動	9:00	集合 出発
	ハイキング	9:30	鮭採補場見学		ビーチコーミング	10:45	新庄駅着
		12:00	昼食（鮭加工場）		鳥海山の湧水Ａ		
		13:00	釜磯海岸見学		鳥海山の湧水Ｂ		
14:40	宿舎着				遊佐の文化	14:56	東京駅着
				15:30	宿舎着		
		15:30	宿舎着			15:50	三鷹駅着
16:00	学習のまとめ	16:00	学習のまとめ	16:00	学習のまとめ	16:00	解散式
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	16:20	解散
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食		
19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き		
20:30	健康ﾁｪｯｸ	20:30	健康ﾁｪｯｸ	20:30	健康ﾁｪｯｸ		
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯		

② 事後の学習内容

・全校児童集会で、映像とナレーションで「セカンドスクール発表会」を行った。それぞれが体験したことを自分の言葉で表現し、他学年の児童や保護者に分かりやすく伝えた。また、心に残ったことを短い文章でまとめ、学校だよりを通して地域の方や保護者に伝えた。

・社会科の「これからの食料生産と食生活」では、循環型農業にふれながら学習をすすめた。児童もご本人から実際に話を聞いているので、現在の日本の農業について考えながら学習でき理解を深めた。

・国語科では「セカンドスクールの感動を書き表そう」と題し、セカンドスクールでの体験を通しての自身の成長や変化を振り返らせ、作文に表現させた。また、「人とものとの付き合い方」の単元では、ゴミ問題について調べ、課題追求活動のビーチコーミングや植樹活動と結び付けながら発表するなど、考えを深めることができた。

・総合的な学習の時間では、バケツ稲の収穫を通して、お米づくりの工夫ややりがいなどについて考え、伊藤さんのお米づくりの工夫と照らし合わせながら自分の考えを深めることができた。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、遊佐自然文化学校活動

①「魚と遊ぼう」

ほとんどの児童が釣りは初めてという状態だったが、講師の先生の丁寧なご指導のもとしかけ作りとえさづけなどの準備を全て自分たちで作った。クサフグ、アジ、クロダイなど 19 種類の魚が釣れた。児童は釣りの難しさを知り、釣れたときの達成感を得るとともに海からも自然の恵みを受けていることを学ぶことができた。

②「木と草花と遊ぼう」

午前は、自然観察をしながら、一の滝、二の滝周辺を散策した。森の中でブナが果たす役割、葉っぱの種類などを分かりやすくご指導いただいた。午後は小刀を使って自然の竹で箸を作った。児童は慣れない小刀に苦戦しながら、できあがった世界に一つだけの箸に満足していた。

③「鳥海山の自然」

数時間にわたり鳥海山麓、高瀬峡周辺を歩き通した。講師の先生のガイドのもと、道なき道をかき分け、川上りなどを体験して、疲れ果てながらも歩き通した自分への自信を深めていた。

④「わくわく農業」

無農薬野菜にこだわる農家の方の畑で、里芋や人参、落花生などを収穫しその場で水で洗って食べた。その後は収穫したての野菜を使って、自分たちで芋煮を作り、おいしく食べることができた。

【大きな里芋を協力して収穫しました！】

2、日向川採補場見学

児童は鮭が川を上る様子や人工授精の様子を見学した。人工授精では、光に当てないようにしながら手際よく作業する様子や、その後受精した卵を入れておく場所を見学した。放した鮭が産卵のため、また日向川に戻ってくるためには、その間川をきれいに保っておかなくてはいけないことや命のつながりについての話を聞き、熱心に耳を傾けていた。

3、釜磯海岸見学

釜磯海岸は、湧水がいたるところから湧きだしている。湧水地点は、手や足を入れると引き込まれるように手足が自然ともぐっていく不思議な場所である。近くに落ちていた木の棒を差し込んでみたり、手で触れてみたりしながら海岸にまで湧き出している水の豊かさに驚いていた。

4、鳥海山登山

例年同様、山に詳しい地元の方々にガイドをお願いしていたが、児童の健康状態を考慮し、登山は断念した。秋田よりの鳥海山麓の獅子ヶ鼻湿原ハイキングに行き、昔、炭を作る材料に使われたことにより大きく変形しているあがりこ大王というブナの木を見学した。その後、鳥

海マリモと呼ばれる巨大なコケ、湧水だけでできた池などを見学した。ブナの実やドングリを見つけながら、児童は楽しく活動していた。

＜学習体験活動＞

1、米作り農家の伊藤さんの話

教科書に載っている方との出会いに児童はわくわくしていた。実際に数種類の稲穂を比べながら、幹の太さや背丈の違いが、米づくりをする上でどのように影響するかについて考えながら話を聞いた。“はえぬき”は庄内の気候に合った品種であること、米作りで何より大切なのは土作りであること、地域の農家全員がよりよい品質作りに努力しないとよい米は確保できないことなどの教科書にはない情報を通して児童は理解を深めていた。

2、養豚業の後藤さんの話

伊藤さんと同じく社会科の教科書にのっている後藤さんに話を聞いた。循環型農業という農業全体の仕組みについての話や豚の糞尿と米のもみがら、わらを混ぜ合わせ乾燥させて作る完熟堆肥作りについての話を実際に堆肥を手に取りながら聞いた。全く臭いのしない堆肥に驚いた児童は、なぜそうなるのかについて熱心に聞き入っていた。その後牛舎見学を行い、牛の数と大きさに圧倒されながらも、飼うための工夫や牛に対する思いなどを畜産農家の高橋さんから真剣に聞いていた。

3、カントリーエレベーター見学

教科書に載っているカントリーエレベーターの構造、働きを理解することができた。エレベーター内の広さやお米を貯蔵しておくタンクの大きさなどを実際に見ることで、たくさんのお米が収穫され、蓄えられていく様子を実感することができた。

4、農作業用機械見学

米づくりで使う農作業用機械が収められている倉庫を見学した。コンバインを始めとする様々な大型機械を目の前にして、稲刈りのスケールの大きさを感じることができた。また、それぞれの機械の運転席に座らせてもらい、様々な操作箇所があることや視点の高さなどを実感することができた。また、一軒一軒の農家が別々に機械を所有するのではなく、共同で所有することによりコストの無駄を省くことができることなどについて理解を深めた。

5、課題追究活動

①「ビーチコーミング」

「遊佐の海岸にはどんなものが流れつくのか調べたい」という課題のもと、漂着物の種類とそれらが及ぼす影響について調査した。海の生き物たちへの影響がやがては自分たちへ返ってくることや国内のごみの多さを知ることができた。

②「鳥海山の湧水 A」

「湧水の性質を調べたい」という課題のもと、各所にある湧水について温度、ペーハー、硬度、残留塩素を調査し、湧水の冷たさや混じりけのなさに驚いていた。また、湧水とミネラルウォーター、水道水などを飲み比べて硬度の違いを実感できた。

③「鳥海山の湧水 B」

「湧水が遊佐の人々にもたらすめぐみを調べたい」という課題のもと、人々の生活に根付いた湧水について実際に場所を訪れながら、豊かな水によって成り立つ生活について学習した。

④「遊佐の文化」

「遊佐で受け継がれているアマハゲについて調べたい」という課題のもと、アマハゲ保存会会長さんから、100 年以上受け継がれているアマハゲのお面を見せていただいたり話を聞いたりした。また、昔ながらの家の造りを見学したり、とんぴん語りと呼ばれるその土地の昔話を聞いたりした。

＜生活体験活動＞

1、遊佐町教育長の話

遊佐町教育長から、セカンドスクールを行うにあたっての心構えのお話をしていただいた。これから始まる８泊９日を通して、遊佐の自然を肌で感じ、体験することを通して大いに成長してほしいとのことだった。特に日本海に沈む夕日は、本当に美しく「ジュッ」という音がして沈むかのようである。また、長期の共同生活で友だちのいいところをたくさん見つけ、友情を深める機会にしてほしいとのお話もいただいた。遊佐町に着いてすぐに、現地を代表する方からの温かいメッセージに児童は、希望を膨らませると同時に、気持ちを引き締めていた。

2、植樹活動

東北公益文科大学の呉先生の指導のもと、カミネッコンを用いての植樹活動に取り組んだ。木を植えることの意味について考えながら、児童はカミネッコンによるリサイクルポッド作りを楽しんだ。紙の部分に思い思いのメッセージを書き入れ、自分だけのリサイクルポッドを完成させた。呉先生のゼミ生も多数参加し、児童とコミュニケーションをとりながら植樹活動をリードした。完成後、吹浦小の学習林へ行き、バイオブロック工法による植樹を行った。今はまだ自分たちの膝くらいしかない木が、やがて大きく成長し自然の恵みを与えてくれることを想像しながら、活動を終えた。

3、そば打ち体験

地元特産である金俣そばの生産組合の方々の協力で、そば打ちの体験をした。普段麺状になったそばしか見たことのない子どもたちにとって、花からできた実をもとにしてそば粉を作り、こねて、伸ばして、切って、茹でるまでの過程は、初めて知ることばかりだった。こねるところからは、生産組合の方にこつを教わりながら自分たちで行った。苦労しながらも自分たちでその日の昼食となるそばを作り上げ、茹で上がった班からできたそばを食べた。班によっては、硬かったり太さがまばらだったりしたが、自分たちで作り上げた達成感もあり、おいしく食べることができた。

4、地元の大学生ボランティア

３日目と４日目の自然文化学校には東北公益文科大学の学生がボランティアで延べ 17 名参加してくれた。遊佐の自然を知っている大学生の存在は児童にも心強かった。児童と一緒に活動を行いながら、戸惑ったり苦労したりしている児童にはアドバイスを送り、活動をスムーズに行えるようにした。そば打ち体験のときや宿舎での生活にも顔を出してくれ、児童にとっては、地元のお兄さんお姉さんと身近に接する良い機会となった。

5、民宿泊

３度目を迎えた遊佐町の旅館等への民宿泊では、前年度同様の温かな対応をしていただいた。各旅館で子どもたちは地元の話を聞いたり、花笠音頭を教えてもらったりと、地元の大人の方とゆっくりと交流することができた。

○児童の感想

【そば打ち体験】

・一番楽しかった事では、そば打ち体験です。粉をこねて、めんぼうでのばして、たたんで細かく切って、ゆでて食べました。おいしかったです。
・一の滝、二の滝を見たとき、すごくきれいで、すごく大きくて感動しました。ぼくは遊佐の自然を大切にしたいと思いました。
・獅子ヶ鼻湿原に行って、ハイキングをしました。自然が光っていました。ゆるやかな道であっという間に着きました。すごく楽しかったです。
・私は、「わくわく農業」で長いもほりをしたことが楽しかったことです。長いもが無きずでほれた時は、４人で喜び、うれしかったです。
・私が一番思い出に残ったのは、民宿で日本海にしずむ夕日を見ながら友だちとお風呂に入ったことです。とてもきれいでした。また見たいです。

○保護者の感想

・今まで家のお手伝いを頼んだりすると、「めんどうくさい。」とか「今忙しいから無理。」というような発言が多く、協力的ではなかったのに、セカンドスクールから帰って来てからはそう言った言葉を言わなくなり、積極的に手伝うようになりました。
・どこがどう変わったというよりも、顔つきや振る舞い全体に変化が見られました。８泊９日をやり遂げたという自信が、本人の中にあるのだと思います。
・今までにない長期の宿泊で大変だったようですが、それ以上に「楽しかった。」と言っていました。普段は、学校のことを話さない子どもが、こちらが聞くまでもなく、たくさんの楽しい経験をしたことを進んで話してくれました。

○総合的な学習の時間との関連について

・バケツ稲を育てることで、米作りの過程を体験した。規模は小さいものの芽出しから行う米作りをしたことで、収穫する喜びを味わうことができた。また、農家の方の苦労についても考えることができた。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・林業体験で得た経験をもとに、自然の大切さを考えながら植樹活動を行った。
・共同生活で大切な場に応じた態度や挨拶をしっかりと行うことができた。

○次年度にむけての反省・課題

・課題別追求活動では、課題のもたせ方が難しかった。児童が自ら計画を立てて、現地での活動につなげるために、教員がより計画的に指導を行っていく必要がある。
・様々な天候を想定した上での、現地協力者との綿密な打ち合わせをしていく必要がある。

桜野小学校　　10月14日～10月19日（5泊6日）

○日程表

１０月１４日（水）		１０月１５日（木）		１０月１６日（金）	
7:45	学校集合・出発式	6:30	起床　健康チェック	6:30	起床 健康チェック
8:00	出発　（貸切バス）	7:00	清掃　朝食	7:00	清掃　朝食
9:30	休憩　（上里ＳＡ）	9:00	宿舎出発	8:00	宿舎出発
11:20	休憩　（越後川口ＳＡ）				
12:30	昼食　（豊栄ＳＡ）	9:30	循環型農業の話　（養豚団地）		
15:00	休憩　（国道７号）		コンバイン（稲刈り）見学		
	道の駅「あつみ」		北平田倉庫見学・検米体験		
			昼食（日和山公園）		
16:45	海浜自然の家着・開校式		山居倉庫見学		鳥海山登山（鶴間池散策）
18:00	夕食		カントリーエレベーター見学		
19:00	入浴・学習のまとめ	16:00	係活動		
20:30	健康チェック	18:00	夕食	16:00	宿舎着
21:00	消灯　就寝	19:00	学習のまとめ　入浴	18:00	夕食
				19:00	入浴・日記・学習のまとめ
		21:00	就寝	21:00	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

・社会科教科書の農業学習の単元では、庄内平野の稲作が取り上げられている。その中で生産者であり稲作について説明している執筆者にセカンドスクール期間中に会うことができることから、社会科の授業そのものを事前学習に位置づけることができた。

☆庄内平野・遊佐町・酒田市の位置、自然環境について

☆米作りの実際、流通

☆循環型農業について

・本校の「総合的な学習の時間（桜野タイム）」では、校内の田んぼでの米作り体験と調べ学習の二本立てが伝統となっており、現地での体験に自分なりの課題をもって取り組めるようにした。

☆米作り体験・・・田植えから稲刈りまで

☆調べ学習・・・・米事典つくり＝「米」に関して興味のあることを調べる。水田の役割を豊かな生態系と自然保護の観点から理解する。

山形県飽海郡遊佐町

参加人数　男子41名　女子44名
計85名

１０月１７日（土）		１０月１８日（日）		１０月１９日（月）	
6:30	起床　健康チェック	6:00	起床 健康チェック	6:30	起床 健康チェック
7:00	清掃　朝食	7:00	朝食	7:00	清掃　朝食
9:00	宿舎出発	8:00	宿舎出発	8:00	大掃除
	自然体験活動４コース		鮭の採卵見学		荷物整理
	○魚と遊ぼう		（日向川採捕場）		部屋点検
	○木や草と遊ぼう	10:00	米作りの話（本楯農民センター）	8:45	閉校式　宿舎出発
	○鳥海山の自然	11:30	海辺の湧水（釜磯海岸）	10:20	休憩（道の駅あつみ）
	○わくわく農業	14:00	お別れお楽しみ会	12:30	昼食（豊栄 SA）
16:00	係活動			14:30	休憩（塩沢石内 SA）
18:00	夕食	16:00	係活動		
19:00	学習のまとめ　入浴	18:00	夕食	16:00	休憩（嵐山 SA）
		19:00	学習のまとめ　入浴		
21:00	就寝	21:00	就寝	17:30	学校着　解散式

・生活班での話し合いや、一緒に給食を食べるなどかかわり合いの活動を増やし、集団生活が円滑に進むようにした。

② 事後の学習内容

・セカンドスクールでの生活・行動班ごとに、活動のまとめの話し合いをする。
・５泊６日の中で印象に残った活動や体験を作文にまとめる。
・「総合的な学習の時間（桜野タイム）」で、まとめとして「セカンドスクール新聞」を作る。
・米作りの延長として校内で刈ったイネの脱穀を行い、収穫した餅米で「もちつき大会」を実施する。

○当初計画からの変更の経緯・内容

セカンドスクール直前の５連休中に新型インフルエンザに感染している児童が 11 人確認された。また、この連休中にこれらの児童と濃厚接触のあった児童が多数いることが情報収集の結果確認された。教育委員会や本校校医と話し合った結果、感染拡大の危険性が極めて高いと判断し、２日間の学年閉鎖及びセカンドスクールの延期を決定した。

実施日数が２日減になったため、当初予定していた活動のうち、「うどん作り体験」と「語り部の方との交流」をとりやめることにした。

○特色ある活動内容

【吹浦港・魚遊ぼう】

＜自然体験活動＞

1、グループ別自然体験活動

遊佐自然文化学校スタッフによるグループ別自然体験活動。４つのコースに分かれ活動した。

「魚と遊ぼう」

吹浦港で魚釣り体験をした。簡易な釣竿をスタッフに用意していただき、餌のつけ方から釣り方まで教わって夕方まで飽きることなく釣り糸を垂らした。収穫は、フグを中心に数は少なかったが、メバル、アイナメなど種類は例年になく多かった。

「木や草花と遊ぼう」

鳥海山麓の一の滝、二の滝周辺の植物を観察しながらハイキングをした。木漏れ日のブナ林、豪快に流れ落ちる滝を見ながら、雪深い山の木はしなやかで折れにくいこと、木の名の由来等を遊佐自然文化学校のスタッフの方から教えていただいた。観察したコース内に食べられる実があることも分かり、喜んで見つけていた。昼食後は、箸やこまを作り、セカンドスクール期間中も自分の箸を使って食事していた。

「鳥海山の自然」

鳥海山登山のスペシャリストの案内で、湧き水を田に送り込むために昔の人が作った川沿いを歩き、湧き水を味わったり植物のことを聞いたりしながら、自然のダイナミックさを感じることができた。午後は、雨水の自然の川を沢登りし、水温や水量など湧き水の川との違いを体で知ることができた。

「わくわく農業」

砂丘での有機野菜栽培の様子を、郷土料理「いも煮」の材料野菜の採り入れを通して味わいながら学んだ。とりたての新鮮な野菜をそのまま食べ、その甘さに驚いていた。砂丘での農業の苦労や工夫は何かなど農家の人から多くのことを聞きながら、楽しいひとときをもつことができた。午後は、掘ったばかりのサツマイモを焼き芋にしていただき、焼き上がるまで小高い丘の上からの景色を楽しみ、日本海と庄内平野、砂丘の位置を確認できた。

2、鳥海山と水

鳥海山麓に位置する遊佐町は、豊富な湧き水、鮭の遡上する川など豊かな自然に恵まれている。その自然を最大限に生かした体験をした。

「牛渡川・丸池」

大きな杉木立の中の丸池は澄んだエメラルドグリーンで、底には倒れて沈みこんだ樹木がそのまま見える。地元の信仰の対象にもなっている幻想的、神秘的な雰囲気を味わった。

「釜磯海岸」

波打ち際の砂の中から湧水が出ている。鳥海山に降った雨が 200 年もかかって湧いてきた水

であり、海の塩水との違いや、全身を使った砂遊びを楽しみ、自然の不思議さに感動しているようだった。

「鳥海山・鶴間池」

午後から天候が崩れるとのスタッフの方の勧めで、鳥海山中腹にある鶴間池を目指した。山道を一歩一歩踏みしめながら慎重に歩を進め、途中スタッフの方に木や草の話を聞きながら急な下り坂を楽しんだ。小川の水を飲み、源流の滝を探索し、池に映る空や雲に感動した。池のほとりでレインコートを着て地面に横たわり、嗅覚や聴覚を使って自然を感じる活動も貴重な体験であった。

帰路の登りも着実な歩みで、けがをする子もでず、全員無事にバスまでたどり着くことができた。途中の休憩では、一面の紅葉に浮かぶ鶴間池を眼下に見て歓声を上げた。

バスのなかでは、満足感からか明るい歌声がはずんでいた。

＜学習体験活動＞

豚の糞尿を利用した循環型農業や、日本有数の穀倉地帯である庄内平野の米作りについて栽培から収穫、保管、発送までの様子を体験・見学・聞き書きをすることができた。

1、本楯地区の農業

社会科教科書で取り上げられている本楯地区に実際に行き、教科書に紹介されている伊藤千春氏から直接お話を伺える貴重な活動であった。教室で学んだことを知識理解にとどまらせず、体感できるのはとても恵まれていることと言える。今年も、稲の生育・品種、自然を大切にして一粒でも多くおいしい米を作りたいという願い、農業の危機と言われる状況の中での米作りに懸ける思い等について伺うことができた。循環型農業の先駆となっている本楯地区での人のネットワークとそれを支える後藤悟氏らの情熱にふれ、教科書では学べないことをじかに体験し学んだ。

2、米入庫作業見学

本楯カントリーエレベーターでは、軽トラックで米が運ばれ入庫するまでの様子や保管の様子を見学し、説明を受けることができた。北平田倉庫では、棒を刺しての検米を体験させていただいたり、等級の違いや、入庫作業の実際を見学したりした。検米作業では、ていねいにひとつひとつの作業を子どもたち自身がやることができ、満足したようだった。また入庫作業のリフトさばきに大きな拍手を送るなど働いている方の苦労や努力にもふれることができた。

【山居倉庫見学】

３、山居倉庫見学

昔から庄内地方の米の集積場所で、山型屋根の倉庫が連なっている。大きなけやき並木で真夏の西日や強風を防いでいること、二重屋根で温度管理を工夫していたことなどを学んだ。隣の歴史資料館では、米作りの変遷や流通の様子を学ぶことができた。倉庫内の高く積み上げられた米袋は圧巻であった。

４、鮭採卵場見学

２日前に確認したときは、数匹しか遡上していなかった鮭がこの日は3,000匹以上も帰ってきていた。採卵場の方の話では、３～４年後の受精した日に遡上してくるそうである。採卵・受精の見学や網揚げの体験など河川における栽培漁業に触れる機会となった。

＜生活体験活動＞

学年全員が同じ宿舎で生活し、毎日の生活リズムを崩さないよう配慮することで、ルールやマナーの意味、友だちとのかかわりなどを学校生活以上に深くとらえ、考えさせることができた。とくに、あいさつや清掃、食事のマナーなど、日に日に定着していく様子を確認することができた。

○児童の感想

・８時間もバスに乗って疲れました。レク担当の人ががんばってみんなを楽しませていたので良かったと思います。
・後藤さんの農業熱意がとても伝わる話でした。農業をする人はすごいんだなと思いました。循環型農業に改めて感心しました。
・庄内平野の広い土地にたくさんの田んぼがあって、稲を刈っているコンバインを見たり、乗ったりしてとてもいい学習になった。
・山居倉庫のけやき並木は、倉庫に日本海からの風が当たらないようにするために植えられたものだと知りました。
・仕掛けをつくるところから始めました。結構時間がかかったけどうまくできました。えさはゴカイで、気持悪かったので針につけたらすぐに海へ入れました。２８匹釣れました。
・一番楽しかったのは、マイ箸づくりです。難しかったけど、世界に一つの箸ができました。水筒でくるみを割ろうとしたら、水筒のほうが割れてしまって大変でした。
・鮭は自分の誕生日に帰ってくることを聞きました。この日が誕生日の鮭がたくさんいて驚きました。お腹を切ってイクラを出しているのを見て、感謝して食べようと思いました。
・活動をたくさんしたり、もめ事があったり、友達との仲が深まったり、たくさんの思い出がよみがえりました。楽しい６日間は、私を成長させてくれました。ありがとうございました。

○保護者の感想

・事前の健康管理が大変でしたが、元気に出発してよかったです。子どもも少したくましくなって帰ってきたように思います。

・思い出とともに身も心も少し大きくなったようです。子も親も７泊は長すぎると感じていたので、５泊で良かったと思いました。
・セカンドが中止という知らせを聞いて大泣きをしていました。日程を変更して実施できて本当に良かったです。少し短くなりましたが、とても充実していたようで、元気いっぱい帰ってきました。
・集団生活を楽しみながらも責任感や自信がついたようで、成長したなあと感じました。
・残念ながら風邪をお土産に持って帰ってきてしまいました。でも、セカンドの生活はすごく楽しかったようで、自分の計画通り着る服も使い切ったようです。
・たくさんの話を楽しそうに聞かせてくれました。延期に向けて先生方のご努力、本当に大変だったと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。
・鳥海山の紅葉がとても印象強かったようです。色々なことを自分で進んでやるように少しなってきました。
・インフルエンザには非常に気を遣いました。帰ってからは、他人に対して又家族に対しても思いやりのある態度が見受けられるようになり成長を感じています。

○総合的な学習の時間との関連について

本校では、市のガイドラインができる以前から学校行事としてカウントしている時間を除き、現地での活動時間をすべて「総合的な学習の時間（桜野タイム）」としている。

これは庄内平野での様々な体験、活動がまさに「総合」そのものであるという考えに基づいている。現地の雄大な自然とふれあい、庄内の素朴な人の温かさや言葉、文化に触れ、子どもたちが身体で体験する活動は、武蔵野市が教育のキーワードとしている「身体・言語・自然」にもつながるといえる。

また、米どころ庄内での活動は、５年生が年間を通して取り組んでいる米を題材としての総合的な学習の時間「桜野タイム」の学習活動と合致していている。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・プレセカンドスクールでその土地に合った体験活動を経験することで期待感が高まり、セカンドスクールでの人とのふれ合いに対して意欲的にかかわることができた。
・プレセカンドスクールでの集団生活の経験が自信となり、スムーズに５泊の宿泊生活を送ることができた。

○次年度に向けての反省・課題

・海浜自然の家の存続形態を考慮しながら、今後も遊佐町や酒田市の自然を生かした、セカンドスクールならではの活動が継続できるよう綿密に計画を立てていきたい。
・現地ならではの活動を吟味し、７泊の学習活動がさらに充実するよう現地と調整しながら計画を立てていきたい。
・インフルエンザに感染した場合、保護者が簡単に送り迎えをできない距離であることを実感した。健康管理には十分留意させたい。